

ジンバブエ共和国  
ハラレ市マブク／タファラ地区  
HIV/AIDS 予防総合対策プロジェクト  
運営指導調査報告書

平成 20 年 8 月  
( 2008 年 )

独立行政法人国際協力機構  
人間開発部

人間

JR

08-098

**ジンバブエ共和国  
ハラレ市マブク／タファラ地区  
HIV/AIDS 予防総合対策プロジェクト  
運営指導調査報告書**

平成 20 年 8 月  
( 2008 年 )

**独立行政法人国際協力機構  
人間開発部**

## 序 文

ジンバブエ共和国「ハラレ市マブク／タファラ地区HIV/AIDS予防総合対策プロジェクト」は、ジンバブエの首都・ハラレ市郊外の低所得者居住地区であるマブク／タファラ地区において、HIV感染率の低下を目的として、2003年12月から3年間の期間で実施されたプロジェクトです。本プロジェクトは、保健児童福祉省を実施機関としつつも、ローカルNGOであるDAPP（Development Aid from People to People）とZAPSO（Zimbabwe AIDS Prevention Support Organization）の2団体に業務を委託し、草の根レベルでの活動を展開して参りました。

今般、プロジェクトが2006年12月をもって終了するにあたり、プロジェクト開始時からの実績（投入・活動実績、成果・目標達成度等）を確認し、評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）の観点から分析・評価を行うことを目的として、運営指導調査団を派遣しました。

本報告書は同調査団による評価作業の結果を取りまとめたものです。ここに本プロジェクトにご協力を賜りました関係各位に対しまして、深甚なる謝意を表しますとともに、本報告書が今後のアフリカ地域におけるHIV/AIDS対策協力を役立てられることを期待します。

平成20年 8 月

**独立行政法人国際協力機構**  
人間開発部長 西脇 英隆

# 目 次

序 文

略語表

評価調査結果要約表

地 図

写 真

第 1 章 運営指導調査の概要 .....	1
1 - 1 調査団派遣の経緯と目的 .....	1
1 - 2 調査団の構成と調査期間 .....	1
1 - 3 主要面談者 .....	2
1 - 4 プロジェクトの概要 .....	3
第 2 章 評価作業の方法 .....	8
2 - 1 主な調査項目 .....	8
2 - 2 情報・データ収集法 .....	8
2 - 3 評価の留意点 .....	11
第 3 章 プロジェクトの実績 .....	12
3 - 1 投入実績 .....	12
3 - 2 成果の達成状況と活動実績 .....	12
3 - 3 プロジェクト目標の達成度 .....	19
第 4 章 評価結果 .....	21
4 - 1 評価 5 項目の評価結果 .....	21
第 5 章 特記事項（提言・教訓等を含む） .....	30
5 - 1 特記事項 .....	30
付属資料	
運営指導調査協議議事録（M/M） .....	33

## 略 語 表

略 語	英 文	和 文
AIDS	Acquired Immunodeficiency Syndrome	エイズ（後天性免疫不全症候群）
ANC	Antenatal Care	産後ケア
ART	Antiretroviral Treatment	抗レトロウイルス薬療法
ARV	Antiretroviral drugs	抗レトロウイルス薬
CDC	Centers for Disease Control and Prevention	疾病予防管理センター
C/P	Counterpart	プロジェクトのカウンターパート
CSW	Commercial Sex Worker	性産業従事者
DAAC	District AIDS Action Committee	地区エイズ活動委員会
DAPP	Development Aid from People to People	（ローカルNGOの名称）
FGD	Focus Group Discussion	フォーカス・グループ・ディスカッション
FHI	Family Health International	（国際NGOの名称）
FO	Field Officer	フィールドオフィサー（DAPP）
HIV	Human Immunodeficiency Virus	ヒト免疫不全ウイルス
IEC	Information, Education and Communication	IEC（情報、教育、コミュニケーション）活動（教育・啓発を目的とした活動）
JICA	Japan International Cooperation Agency	独立行政法人国際協力機構
JOCV	Japan Overseas Cooperation Volunteers	青年海外協力隊
MDGs	Millennium Development Goals	ミレニアム開発目標
M/M	Minutes of Meeting	ミニッツ
MOHCW	Ministry of Health and Child Welfare	保健児童福祉省
NAC	National AIDS Council	国家エイズ委員会
NGO	Non-Governmental Organization	非政府組織
OVC	Orphans and Vulnerable Children	エイズ孤児とHIV/AIDSのため弱い立場にある子どもたち
PMTCT	Prevention of Mother to Child Transmission of HIV	HIV母子感染予防
PSN	Passionate	（DAPPのボランティアの総称）
TCE	Total Control of The Epidemic	（地域に入り、地域住民と一対一で対話を行うことで正しいHIV/AIDSの知識を広める手法）
UNAIDS	The Joint United Nations Programme on HIV/AIDS	国連合同エイズ計画

略 語	英 文	和 文
UNICEF	United Nations Children's Fund	国際連合児童基金
VCT	Voluntary Counseling and Testing	自発的カウンセリングと検査
WHO	World Health Organization	世界保健機関
ZAPSO	Zimbabwe AIDS Prevention Support Organization	(ローカルNGOの名称)

## 評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：ジンバブエ共和国	案件名： ハラレ市マブク / タファラ地区 HIV/AIDS予防総合対策プロジェクト
分野：保健医療・HIV/AIDS	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署： 人間開発部第四グループ感染症対策チーム	協力金額（評価時点）： 約0.9億円
協力期間	2003年12月5日
	~ 2006年12月4日（3年間）
	先方関係機関：保健児童福祉省 日本側協力機関：なし 他の関連協力：なし
1 - 1 協力の背景と概要 ジンバブエ共和国(以下、「ジンバブエ」と記す)におけるHIV成人感染率は20.1%(UNAIDS 2006)に達し、エイズ孤児の増加、労働力の減少に伴う経済的損失と社会的費用の増大等、HIV/AIDSがジンバブエに与える影響は極めて深刻である。対ジンバブエへの援助重点課題の1つである保健医療分野の中では、HIV/AIDS対策強化は開発課題として掲げられており、このうちHIV/AIDS予防啓発は母子感染予防と並んで重点的に協力すべき柱として位置づけられている。 このような状況の下、ハラレ市郊外の低所得者居住地区であるマブク / タファラ地区において、同地区におけるHIVの新規感染の低下を目的としたプロジェクトが2003年12月から3年間の期間で実施された。なお、本プロジェクトはDAPP (Development Aid from People to People) とZASPO (Zimbabwe AIDS Prevention Support Organization) という2つのローカルNGOへの業務委託を通して実施した。	
1 - 2 協力内容 (1) 上位目標 マブク / タファラ地区の住民の健康が向上する。 (2) プロジェクト目標 マブク / タファラ地区においてHIVの新規感染が減る。 (3) 成果 1) 対象住民がHIV/AIDSの知識を得る。 2) 自発的カウンセリングと検査 (Voluntary Counseling and Testing : VCT) サービスを通じて対象住民が自らのHIV感染の有無を知る。 3) 安全な性行動などの行動変容が促進される。 4) 対象地区においてHIV/AIDSサポートネットワークが構築され、住民がサポートネットワークに容易にアクセスができる。 5) 対象地区出身のフィールドオフィサーのHIV/AIDS対策知識とサービス提供能力が強化される。	

#### (4) 投入

ローカルNGO委託経費（備人費、教材作成費、ワークショップ実施経費、検査キット購入費、施設整備費等） 89,274千円

### 2. 評価

#### (1) 妥当性

以下のとおり、本プロジェクトの妥当性が高いことが確認された。

- ・ジンバブエのHIV陽性率は20.1%とサブサハラ地域においても高く、対象地区の位置するハラレ市の陽性率はさらに高いことからプロジェクトを実施する優先度が高い。
- ・治療の拡大やHIV/AIDSの正しい知識が普及している中、住民のVCTサービスへの需要は高く、ZAPSO・VCTセンターはマブク/タファラ地区における、唯一の独立型VCTセンターとして住民の需要に応えている。最近ではマブクポリクリニックでHIV検査キットが不足している場合など、VCTセンターはHIV診断センターとしての役割も果たすようになっており、地域の医療機関からの需要も高い。
- ・本プロジェクトではジンバブエのHIV/AIDS国家戦略と合致した活動〔VCTセンター拡充、予防啓発活動、エイズ孤児とHIV/AIDSのため弱い立場にある子どもたち(Orphans and Vulnerable Children: OVC)への支援等〕を行っていることから妥当性は高い。また、日本のジンバブエに対する援助重点分野とも合致している。

#### (2) 有効性

プロジェクト目標は対象地区において「HIVの新規感染を減らす」ことであるが、新規感染率のデータの入手は困難であり、本プロジェクトでは指標化の難しい目標設定を行っていた。直接的に測定可能な指標は存在しないが、本プロジェクトの成果の設定は新規感染の削減につながるものであり、各成果が達成されているため、プロジェクトの有効性は概ね良好であると判断される。

具体的には、対象地区の住民がHIV/AIDSに対する正しい知識を身につけた結果、VCTセンター利用が促進されたこと（対象成人人口の約18%がHIV検査を受診）、男性の巻き込み（男性団体との連携など）、コンドーム配布及び利用促進、陽性者団体支援活動等、HIV新規感染削減へ向けた包括的取り組みが行われたことなどから、各成果のプロジェクト目標に対する貢献度は大きいと推定される。

#### (3) 効率性

各成果の達成度から見て、プロジェクトは効率的に行われたと判断される。

特に、文化的状況に大きな影響を受けるHIV/AIDSというセンシティブな課題に対して、現地NGOの活用により、現地の言葉を用い、文化的背景を理解できる現地スタッフによる活動が可能となり、成果の達成のために適切かつ効率的な投入が行われた点は評価されよう。

また、DAPPはモザンビーク等周辺諸国で用いた経験のあるTCE（Total Control of The Epidemic：地域に入り、地域住民と一対一で対話を行うことで正しいHIV/AIDSの知識を広める手法）という手法を取り入れ、既存のIEC（Information, Education and Communication）教材を活用することで円滑な活動が可能となった。

既存の教材の活用という点においては、対象地区住民の言語（ニャンジャ語）への翻訳、最新の情報への更新など改善の余地も認められたが、TCE手法の導入は本プロジェ

クトの効率性に大きく寄与した。

一方、DAPPとZAPSOの両団体の活動の効率性をさらに高めるため、連携促進のための工夫が必要であった。例えば、定期会合の開催により互いの活動進捗を確認することで、互いのリソースを有効活用することも考えられたであろう。

費用対便益に関しては、DAPPによるTCE活動の受益者単価は1.88[USD / 人・年]であり、当初の設定1.00[USD / 人・年]を上回った。しかし、ジンバブエの年率1,000%を超えるインフレによる活動費への影響、2005年5月の政府のクリーンアップ作戦による活動への影響（人口流入による世帯登録のやり直し等）などの外部要因を鑑みると概ね良好と判断される。

ZAPSOによるVCT活動の受益者単価は、2004年度166.46[USD / 人]、2005年度25.29[USD / 人]、2006年度24.49[USD / 人]であった。ZAPSOについては初期投資があった初年度は比較的高額となったが、以降は約25[USD / 人]であり、独立型VCTセンターにおける経費としては妥当な範囲であると判断される（参考：ジンバブエの他団体VCTセンターでは29USD）。

効率性を高めた要因としては、DAPPの啓発活動によりVCT利用への需要が高まったこと、対象地区が人口密集地域であることなどが考えられる。

#### （４）インパクト

上位目標「住民の健康状態の改善」は高い目標設定であり、今次評価において、想定されたインパクトを直接確認することは困難であった。しかし、対象地区での全般的な健康状態の改善につながると予測される2つの要因（HIV/AIDSを中心とした包括的健康教育、地域の医療組織との連携構築）は確認することができた。

プロジェクト実施による正のインパクトとして、1）HIV/AIDSに関するオープンな機運（陽性ステータスの公表）と、2）脆弱層（Commercial Sex Worker：CSWなど）の自信の向上と収入創出活動が認められた。さらには、DAPPの「Positive Living Course（陽性者の生活に関する6カ月のコース）」にマブクポリクリニックの看護師が自主的に参加するなど、医療従事者の巻き込みも行われた。また、同クリニックがDAPPの母子感染予防教育の効果を認め、本プロジェクト終了後にDAPPの活動を見習う形で独自にHIV母子感染予防プログラム内での予防啓発活動を実施することとなるなど、想定外のインパクトも確認された。

一方、負のインパクトとして、ZAPSO・VCTセンターのカウンセラーが結果として偶然、全員女性であったため、VCTサービスを受けたいと考える地域の男性のサービス利用を十分促進できなかった可能性が残された。

#### （５）自立発展性

自立発展性の確保が以下のとおり示唆された。

DAPPのTCE活動は、地域住民から選ばれ、プロジェクトにより養成されたパッションイト（ボランティア）が引き続き啓発活動を担うことが期待される。パッションイトの自主性は高く、プロジェクトで収入創出活動を組み入れた形で活動が行われており、いまも2,500人が活動を継続している。DAPPが対象地区の人口の3分の1に相当する約11万人に啓発活動を実施したことにより、地域住民のHIV/AIDS対策能力の底上げがなされ、地域でHIV/AIDS対策が自立発展していく基盤が整えられた。

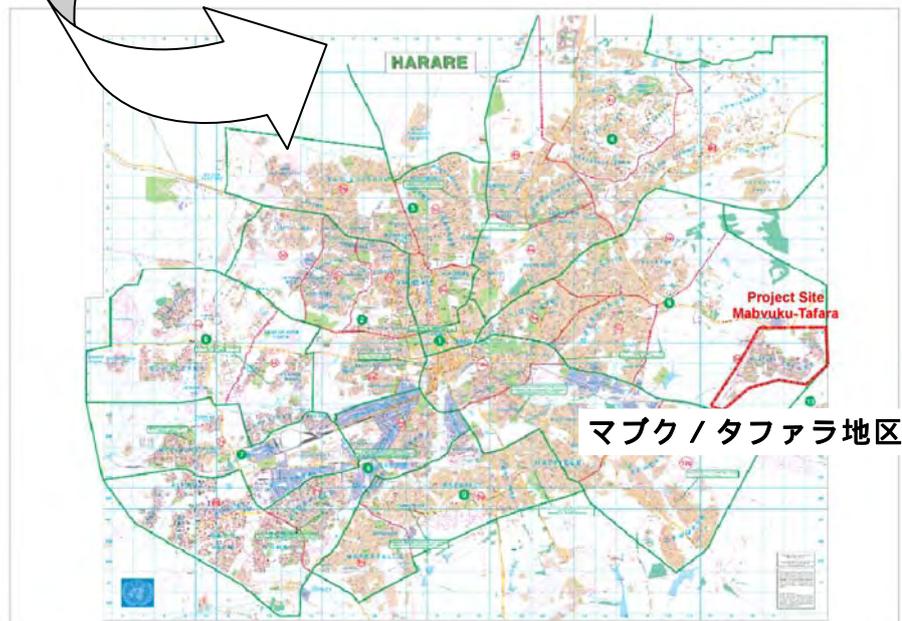
さらに、DAPPの別のHIV/AIDS関連プロジェクトである「Hope」が対象地域で活動を開始する予定であり、ボランティアの活動への支援が実施される予定である。

一方、ZAPSOもVCTセンター運営継続の意思を示しているが、財源確保ができる確証は得られていない。財源確保への更なる取り組みと保健省との連携により、自立発展性が見込まれるであろう。

### 3. 特記事項（提言・教訓等を含む）

- ・ DAPPのアプローチは対象人口全員に対し、一律に啓発活動を実施する方式であったため、人々の差別偏見を取り除き、行動変容を促すために有効であった。ハイリスクグループ（CSWなど）を対象としたアプローチでは、活動の対象となること自体への心理的抵抗、周辺からの差別偏見を生み出す可能性が高い。
- ・ 多数（9,000人以上）の様々な属性（CSW、男性、若者など）のパッションイト（ボランティア）を養成したことで、対象グループの特性に合わせた活動が可能となった。
- ・ 宗教指導者がVCTセンターでHIV検査を受けたことにより、宗教指導者間のHIV/AIDSに対する関与が高まった。また、地域の教会でエイズをテーマとした説教が行われ、陽性者が教会からスピリチュアルサポートを受けることが可能となった。さらには差別偏見の低減に寄与する結果となった。
- ・ 男性団体との連携を構築したことで男性の巻き込みが促進された。一方、VCTセンターのカウンセラーが全員女性であったことで、男性のVCTセンターへのアクセスが十分に促進されなかった可能性が残された。
- ・ プロジェクト開始前にExit Plan（出口戦略）を策定することが必要である。プロジェクト開始時から終了後のシナリオをある程度、描いておく必要がある。さらに、中間評価を行い、出口戦略について関係者間で合意形成を図っておく必要がある。
- ・ 保健省等、行政の巻き込みを強化することで更なる自立発展性が見込まれたであろう。VCTセンターについては、保健省との連携を図ることなどで、VCTサービスの質の確保も可能であったと思われる。

【ジンバブエ地図】



【ハラレ中心部地図】



ZAPSO・VCTセンター外観



ZAPSO・VCTセンターの診察室の様子



DAPPのパッションイト（ボランティア）



DAPPの収入創出活動（廃品利用）



TCEのフィールドオフィサーへのインタビュー



合同評価ワークショップの様子

## 第 1 章 運営指導調査の概要

### 1 - 1 調査団派遣の経緯と目的

ジンバブエ共和国（以下、「ジンバブエ」と記す）におけるHIV成人感染率は20.1%（20.1% [ 13.3% - 27.6% ]; UNAIDS 2006）に達し、成人のほぼ5人に1人がHIVに感染している。ジンバブエはサブサハラ・アフリカ地域で、唯一、成人の感染率が下がった国であるが（UNAIDS 2006）依然HIVの流行は深刻である。エイズ孤児の増加、労働力の減少に伴う経済的損失と社会的費用の増大等、HIV/AIDSがジンバブエに与える影響は極めて深刻である。対ジンバブエへの援助重点課題の1つである保健医療分野の中では、HIV/AIDS対策強化は開発課題として掲げられており、このうちHIV/AIDS予防啓発は母子感染予防と並んで重点的に協力すべき柱として位置づけられている。

このような状況の下、ハラレ市郊外の低所得者居住地区であるマブクノタファラ地区において、同地区におけるHIV感染率の低下を目的とした「ハラレ市マブクノタファラ地区HIV/AIDS予防総合対策プロジェクト」が2003年12月から3年間の期間で実施された。

プロジェクトが2006年12月をもって終了するにあたり、プロジェクト開始時からの実績（投入・活動実績、成果・目標達成度等）を確認し、評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）の観点から分析・評価を行い、ジンバブエ側、実施委託先ローカルNGOであるDAPP（Development Aid from People to People）とZAPSO（Zimbabwe AIDS Prevention Support Organization）及び日本側に対し、プロジェクト終了後へ向けた提言と教訓を導くことを目的として、運営指導調査団が派遣された。

### 1 - 2 調査団の構成と調査期間

#### （1）調査団の構成

氏名	担当分野	所属
江口 秀夫	団長 / 総括	JICAジンバブエ駐在員事務所長
相賀 裕嗣	公衆衛生	JICA国際協力専門員 人間開発部課題アドバイザー
山田 順子	評価計画	JICA人間開発部感染症対策チーム ジュニア専門員

#### （2）調査期間

調査期間は2006年11月18日（土）から12月3日（日）までの計16日間、以下のスケジュールのとおり行われた。

	月日	時刻	調査活動内容
1	11月18日(土)		成田発 (NH911 18:40)
2	11月19日(日)	午後	ハラレ着 (12:30) JICAジンバブエ事務所打ち合わせ
3	11月20日(月)	午前 午後	在ジンバブエ日本国大使館表敬 現地コンサルタント打ち合わせ 水元企画調査員インタビュー

4	11月21日(火)	午前 午後	ZAPSO本部及びVCTセンター視察・関係者インタビュー DAPP事務所視察・関係者インタビュー
5	11月22日(水)	午前 午後	現地コンサルタント打ち合わせ ハラレ マシゴ(移動)
6	11月23日(木)	午前 午後	マシゴ州HIV母子感染予防プロジェクト1周年記念 式典 マシゴプロジェクト専門家との協議
7	11月24日(金)		マシゴプロジェクト関係者との協議 州病院、ヘルスセンター等プロジェクトサイト視察
8	11月25日(土)	午前 午後	マシゴ ハラレ(移動) 資料分析、ZAPSO配属JOCVインタビュー
9	11月26日(日)		調査結果・資料分析、実績整理
10	11月27日(月)		調査結果分析、実績整理 現地コンサルタントとの打ち合わせ
11	11月28日(火)		調査結果分析、実績整理 現地コンサルタントとの打ち合わせ
12	11月29日(水)		CDCでの情報収集・意見交換 収集情報の整理、分析、プロセス評価、実績評価の整理 評価レポート作成
13	11月30日(木)	午前 午後	地区エイズ活動委員会(DAAC)情報収集・意見交換 合同評価ワークショップ
14	12月1日(金)	午前 午後	DAPP・TCE活動視察 評価レポート JICAジンバブエ事務所報告、在ジンバブエ日本国大使館 報告
15	12月2日(土)		ハラレ発(SA023 13:20)
16	12月3日(日)		成田着(20:15)

### 1 - 3 主要面談者

#### (1) DAPP

Mr. Luckson Soda

Principal of DAPP Frontline Institute

#### (2) ZAPSO

Mr. E. J. Chidombwe

Executive Director

Mr. N. L. Mhlanga

Senior Programme Officer

Ms. P. Machiva

Accountant

Mrs. C. Ndlovu

Nurse Counselor

#### (3) 在ジンバブエ日本国大使館

吉川 毅男

特命全権大使

寺村 伸一

参事官

Ms. Naruge

Programme Officer

( 4 ) JICA関係者

Mr. James Nyahunde  
水元 芳

JICAジンバブエ駐在員事務所ナショナルスタッフ  
南アフリカ共和国事務所企画調査員

( 5 ) その他

Ms. Ginny Bourassa

CDC Zimbabwe

Ms. Stacie M. Greby

Epidemiologist, CDC Zimbabwe

Ms. Norma Jenami

SICC, PMTCT Site Manager, Mabvuku Polyclinic

( 6 ) マシング州HIV母子感染予防プロジェクト

橋本 尚文

プロジェクト運営管理 / 人材開発専門家

Mr. Mataru Nilliam Henry, RN

Mushandike Rural Health Centre ( Basic Site )

Ms. E. Tsuvo

Mukosi Rural Health Centre ( Comprehensive Site )

Ms. J. Museba

Mukosi Rural Health Centre ( Comprehensive Site )

1 - 4 プロジェクトの概要

( 1 ) 案件名

ハラレ市マブク / タファラ地区HIV/AIDS予防総合対策プロジェクト

( 2 ) 協力期間

2003年12月5日 ~ 2006年12月4日

( 3 ) M/M署名日

2003年12月5日

( 4 ) プロジェクト対象地域

ハラレ市マブク / タファラ地区 ( 人口約30万人 )

( 5 ) 相手国機関

保健児童福祉省 ( Ministry of Health and Child Welfare : MOHCW )

本プロジェクトはDAPP ( Development Aid from People to People ) とZAPSO ( Zimbabwe AIDS Prevention Support Organization ) の2つのローカルNGOへの業務委託を通し実施された。

( 6 ) プロジェクトの目的

自発的カウンセリングと検査 ( Voluntary Counseling and Testing : VCT ) サービスの提供及び地域住民への啓発活動を通じ、ハラレ市マブク / タファラ地区におけるHIV新規感染の減少 ( プロジェクト目標 ) を目指し、最終的には住民の健康状態の改善 ( 上位目標 ) に

寄与する。

#### (7) プロジェクト概要

##### 1) 上位目標

マブク/タファラ地区の住民の健康が向上する。

##### 2) プロジェクト目標

マブク/タファラ地区においてHIVの新規感染が減る。

##### 3) 成果：

対象住民がHIV/AIDSの知識を得る。

自発的カウンセリングと検査（Voluntary Counseling and Testing：VCT）サービスを通じて対象住民が自らのHIV感染の有無を知る。

安全な性行動などの行動変容が促進される。

対象地区においてHIV/AIDSサポートネットワークが構築され、住民がサポートネットワークに容易にアクセスができる。

対象地区出身のフィールドオフィサーのHIV/AIDS対策知識とサービス提供能力が強化される。

##### 4) 活動：

フィールドオフィサーがグループ活動を通じたIEC（啓発）を行い、個人または家庭に対してHIV/AIDSに対する専門的アドバイスを行う。＜DAPP＞

様々なプロモーション活動を通してHIV/AIDSに関する情報普及を行う。＜DAPP&ZAPSO＞

患者に対して自発的カウンセリングと検査を行う。＜ZAPSO＞

有資格者がプレ・ポストカウンセリングを行う。＜ZAPSO＞

リファラルを含む上記以外のサービスが患者に提供される。＜DAPP&ZAPSO＞

#### (8) プロジェクト実施体制

本プロジェクトは、2つのローカルNGO（DAPPとZAPSO）に活動を委託して実施された。図1-1に示すとおり、DAPPは主として予防啓発活動を担当し、ZAPSOはVCTサービスの提供を担当した。本プロジェクトの各成果と両NGOの活動との関係は表1-1を参照されたい。

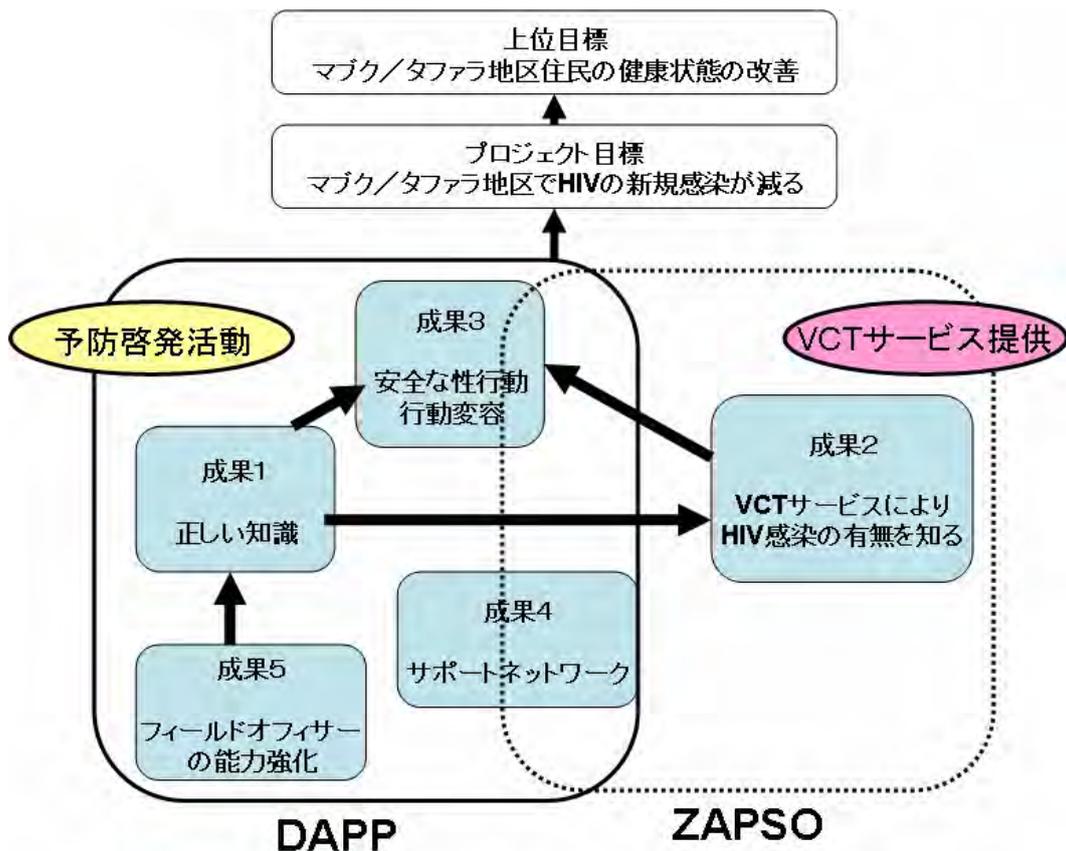


図 1 - 1 プロジェクトの構造とローカルNGOへの委託範囲

1 ) DAPP

DAPPはHumana People to Peopleという団体の傘下であり、TCE ( Total Control of The Epidemic : 地域に入り、地域住民と一対一で対話を行うことで正しいHIV/AIDSの知識を広める手法 ) 活動により、HIV/AIDS予防啓発活動を展開している。実際に予防啓発活動を実施したのはフィールドオフィサー ( Field Officer : FO ) と呼ばれるマブク / タファラ地区出身の50名の人物であり、現場ではパッションエイトと呼ばれるボランティア ( Passionate : PSN ) がフィールドオフィサーの活動を補助している。

DAPPでは、マブク / タファラ地区 ( 人口約30万人 ) のうち10万人を対象に、50名 ( 2006年4月より25名に減少 ) のフィールドオフィサーが各担当地区 ( 各々2,000人 ) の家庭を定期的に戸別訪問し、一人一人にHIV/AIDSに関する情報を提供するとともにVCTの重要性を訴え、ZAPSOが運営するVCTセンターを紹介している。また、HIV感染者やその関係者の生活の向上のためのサポートグループを通じた活動も実施している。

< DAPPの活動概要 >

目標：マブク / タファラ地区のHIV/AIDS対策が強化される。

成果： 10万人が一对一での対話によりHIV/AIDSに関する正しい知識を得る。

10万人がHIV/AIDS対策に関与するようになる。

個人及び地域がHIV/AIDSへの対策が実施できるようになる。

約4万人の15歳以上の成人が安全な性行動がとれる、コンドームや他の避妊方法へのアクセスを促進する。

地域のHIV感染者やHIV/AIDSの影響を受ける人々が積極的にサポートグループに参加する。

在宅ケアのボランティアを養成する。

支援が必要な孤児の所在を確認し、支援する。

妊婦及びその配偶者（パートナー）、医療従事者、コミュニティボランティアに母子感染予防に関する教育を行う。

栄養ケア、母乳限定育児支援など他の健康教育活動

19歳以下の若者に対しHIV感染予防のためのHIV/AIDS教育を行い、HIV対策活動への積極的な関与を引き起こす。

2 ) ZAPSO

ZAPSOは1997年に国際NGOのFHI ( Family Health International ) の事業を受け継ぎ、1998年にローカルNGOとして発足した。職場でのエイズ教育やVCTセンターの運営等を行っている。

本プロジェクトの活動として、VCTセンターをマブク地区に開設し、2004年5月からマブク / タファラ地区においてVCTサービス提供を開始している。プロジェクト開始後の2003年12月から2004年4月の間は、VCTセンター建設、スタッフリクルート、運営許可申請、VCTセンターの広報、DAPPフィールドオフィサーへの講義等の準備期間として活動を実施した。

ZAPSOのVCTセンターはマブク / タファラ地区では唯一の独立型VCTセンターである。センターでは、プレカウンセリング、HIV迅速検査、ポストカウンセリング、継続的支援カウンセリングサービスを提供し、パンフレット配布の健康教育活動、サポートグループ活動支援などを行っている。

スタッフは看護師カウンセラー2名、カウンセラー1名、JOCV1名、管理人1名、警備員1名。営業時間は、月曜から木曜は8時から16時、金曜は8時から13時。2005年1月から50ZD ( デノミ前は1,000ZD ) 徴収している。

< ZAPSOの活動概要 >

目標：VCTセンターにてVCTサービスの提供

成果： VCTセンターの設立・運営

VCTサービスのマーケティング

ヘルスプロモーション活動

VCTサービスの提供

リファラルシステムの構築

性感染症治療・家族計画サービスとの連携

表 1 - 1 プロジェクトの各成果と委託先NGOの活動との関係

プロジェクト要約	DAPP (プロジェクトドキュメントより)	ZAPSO (プロジェクトドキュメントより)
上位目標 マブク/タファラ地区の住民の健康状態が向上する		
プロジェクト目標 マブク/タファラ地区においてHIVの新規感染率が減る		
成果 1. 対象住民がHIV/AIDSの知識を得る	10万人が1対1での対話によりHIV/AIDSに関する正しい知識を得る 妊婦及びその配偶者(パートナー)、医療従事者、コミュニティボランティアに母子感染予防に関する教育を行う 19歳以下の若者に対しHIV感染予防のためのHIV/AIDS教育を行い、HIV対策活動への積極的な関与を引き起こす	VCTサービスのマーケティング
2. 自発的カウンセリングと検査サービスを通じて対象住民が自らのHIV感染の有無を知る		VCTセンターの設立・運営 VCTサービスの提供
3. 安全な性行動などの行動変容が促進される	約4万人の15歳以上の成人が安全な性行動がとれる、コンドームや他の避妊方法へのアクセスを促進する	ヘルスプロモーション活動
4. 対象地区においてHIV/AIDSサポートネットワークが構築され、住民がサポートネットワークに容易にアクセスができる	地域のHIV感染者やHIV/AIDSの影響を受ける人々が積極的にサポートグループに参加する 在宅ケアのボランティアを養成する 支援が必要な孤児の所在を確認し、支援する 栄養ケア、母乳限定育児支援など他の健康教育活動	リファラルシステムの構築 性感染症治療・家族計画サービスとの連携
5. 対象地区出身のフィールドオフィサーのHIV/AIDS対策知識とサービス提供能力が強化される	10万人がHIV/AIDS対策に関与ようになる 個人及び地域がHIV/AIDSへの対策が実施できるようになる	

## 第 2 章 評価作業の方法

### 2 - 1 主な調査項目

本プロジェクトの評価は、「JICA事業評価ガイドライン（改訂版：2004年2月）」に基づく評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）に準じて行った。評価5項目の定義は、以下に示すとおりである。

#### （1）妥当性（Relevance）

プロジェクト目標及び上位目標が評価時においても妥当であることを検証する評価項目

#### （2）有効性（Effectiveness）

プロジェクト目標及び成果の到達度を検証する評価項目

#### （3）効率性（Efficiency）

成果（Output）は投入やコストに見合っていたか、プロジェクト目標の達成度は投入やコストに見合っていたかを、投入のタイミングや質・量の観点から検証する評価項目

#### （4）インパクト（Impact）

上位目標の達成の見込み、ならびにプロジェクトによる長期的・間接的效果や波及効果を検証する評価項目

#### （5）自立発展性（Sustainability）

支援が終了した後も、プロジェクト目標や上位目標などプロジェクトが目指していた効果が持続する見込みの可能性を検証する評価項目

本評価における各評価5項目を構成する具体的な調査項目を表2-1に示した。本評価においては、これら各調査項目について、『極めて良好』、『概ね良好』、『やや難あり』、『重大な問題』の4段階で評価を示した。そのうえで、各評価5項目に対して、同様に4段階で評価を下すこととした。なお、表2-1中に示す各NGO（DAPPならびにZAPSO）の活動と調査項目との関連の程度は、「○：大変関連がある」、「△：関連がある」、「×：関連が少ない」の3段階で判断している。

### 2 - 2 情報・データ収集法

今次調査では、一次データ及び二次データの収集・分析により評価作業を行った。特に、HIV/AIDSは非常に繊細かつ人々の知覚や感情に関わるトピックであるだけに、同様な調査項目も複数のデータ源から確認するアプローチ（Triangulation）を用いた。

一次データの具体的な収集法は表2-2に取りまとめた。なお、二次データは関係文書のレビューやインターネットを介して得られたものととどまる。

表 2 - 1 評価 5 項目の調査項目ならびにデータ収集法

評価 5 項目	評価の視点	調査項目	各NGO活動との関連		主な情報源及びデータ収集法
			DAPP	ZAPSO	
1. 妥当性	・受益者のニーズに合致	マブク / タファラ地区の住民がHIV/AIDSの知識を得るニーズ			・ DAPP実施のベースライン調査報告書のレビュー ・ FGD (成人男女・思春期男女) ・ 質問票による構造化面接調査 (成人男女・思春期男女)
		マブク / タファラ地区の住民がHIV感染の有無を知るニーズ			
		マブク / タファラ地区の住民のケア・サポートに対するニーズ			
	・ジンバブエの開発政策・戦略との整合性	ジンバブエ保健児童福祉省の政策との整合性			・保健児童福祉省の政策文書のレビュー
		ジンバブエ国家エイズ評議会の政策との整合性			・国家エイズ評議会の政策文書のレビュー
	・日本の開発政策・戦略との整合性	日本のODAの援助政策との整合性			・『保健と開発』に関するイニシアティブ等のレビュー
JICAの援助政策との整合性				・JICA国別事業実施計画との照合	
・国際開発政策との整合性	世界の開発援助の潮流との整合性			・国際機関の開発政策・戦略等の文書のレビュー	
2. 有効性	・プロジェクト目標の達成度	マブク / タファラ地区のHIV新規感染率が低下する			・ ZAPSO運営のVCTセンターの検査結果のデータベース
	・成果の達成度	マブク / タファラ地区の住民がHIV/AIDSの正しい知識を得る			・ FGD (成人男女・思春期男女) ・ 質問票による構造化面接調査 (成人男女・思春期男女) ・ マブク / タファラ地区での観察 ・ 実施NGOの職員 (含JOCV) との半構造化面接調査
		マブク / タファラ地区の住民がVCTを通じてHIV感染の有無を知る	x		
		マブク / タファラ地区のコンドーム使用等の性行動変容が見られる			
マブク / タファラ地区にHIVサポートネットワークへのアクセスが確保される					
3. 効率性	・成果からみた投入 (質・量・タイミング) の妥当性	日本・ジンバブエ側投入の適正度			・ 各プロジェクト文書のレビュー ・ 実施NGOの職員との半構造化面接調査 ・ マブク / タファラ地区での観察
		投入の活用度			
		費用対効果、費用対便益			
4. インパクト	・上位目標の達成の見込み	マブク / タファラ地区の住民の健康状態が改善の達成可能性			・ FGD (成人男女・思春期男女) ・ 質問票による構造化面接調査 (成人男女・思春期男女) ・ マブク / タファラ地区での観察
	・プロジェクトがもたらすプラス・マイナスの波及効果	直接的・間接的なプラスの影響			
		直接的・間接的なマイナスの影響			
5. 自立発展性	・援助終了後の効果の持続性	対象コミュニティのオーナーシップ			・ 実施NGOの職員との半構造化面接調査 ・ 他の援助機関の職員との半構造化面接調査
		実施NGOの組織・財政等の体制			
	・実施機関のオーナーシップ	実施NGOのJICA支援終了後の事業継続についての方針			

表 2 - 2 一次データの収集法

データ収集法	調査対象	調査対象数・標本数
フォーカス・グループ・ディスカッション (FGD)	成人 (男女混合)	3グループ
	青年 (男女混合)	2グループ
	HIV感染者及び支援グループ	2グループ
構造化面接調査	成人男性	30人
	成人女性	40人
	青年男性	28人
	青年女性	25人
出口調査	ZAPSO運営のVCTセンターで事前・事後カウンセリング及び検査のすべてを受けた者	6人
半構造化面接調査	DAPP及びZAPSO職員	15人
	教会職員	2人
	クリニックや病院の職員	4人
	民間企業の職員	2人
	医師	1人
	教員	3人
	自宅ベースのケアの提供者	6人
	パッションエイト	50人
観察	VCTセンターのカウンセリング室	2部屋
	IEC教材	多数
	VCTセンターのサービスの質	
	コミュニティ内のコンドーム分配所 (民家)	1カ所
	ミニ図書館	1カ所
関係者への質問票による調査	国家VCT調整長 代理	1人
	知識情報担当職員	1人
	住民組織の議長	1人
	警察官	2人
	Peace Department構成員	2人
	DACC職員	3人

住民を対象にした構造化面接調査で用いた質問票では、同地区の住民のHIV/AIDSに関する知識ならびにコンドーム使用等の性行動変容の計測には、可能な限りUNAIDSの標準指標<sup>1</sup>を用いた。

<sup>1</sup> UNAIDS (2005) *Guidelines on construction of core indicators*. UNAIDS: Geneva. 可能な限りこの指針に従った。ただし、同指針ではHIVの感染ルートに関する5つの質問のすべてに正解した者を、『HIVの感染ルートの知識がある者』と定義しているが、本評価の調査では、既存のベースライン・データの集計法に応じて柔軟に運用した。

## 2 - 3 評価の留意点

### (1) プロジェクト目標の達成度の計測

対象地区であるマブク/タファラ地区における、正確な新規感染率（Incidence）を推定することは極めて困難である。なぜならば、本プロジェクト開始前に既にHIVに感染していた者が啓発活動によってVCTサービスを利用し、検査の結果HIV陽性となった場合は、プロジェクト期間内の新規感染のケースとは言えないからである。

しかし、VCTセンターの既存データから新規感染率（Incidence）を推定するには、ある時点の感染率（Prevalence）<sup>2</sup>を代替指標（Proxy Indicator）として用いらざるを得ない。この感染率は上記のとおり、プロジェクト開始前に既にHIVに感染していた者も含めるInclusion errorを含むため、啓発活動が順調に展開されればされるほど、高くなる可能性があることに留意すべきである。

$$\text{感染率（％）} = \frac{\text{プロジェクト実施期間内でVCTセンターでの検査結果がHIV陽性だった人数}}{\text{同期間内でVCTセンターにてHIV検査を受けた総人数}} \times 100$$

### (2) ベースライン・データの欠如

対象地区であるマブク/タファラ地区の住民のHIV/AIDSに関する知識等に関しては、DAPPがプロジェクト開始時にベースライン調査を実施したため、本運営指導調査時のデータと比較が可能である。しかし、HIV感染率に関してはZAPSOがベースライン調査を実施すべきであったが、実際には行われなかった<sup>3</sup>。そのため、HIV感染率の推移は、プロジェクト開始後の経年変化を観察することのみとなった。

### (3) 標本数ならびに標本抽出法

DAPPが実施したベースライン調査と本運営指導調査時にローカルコンサルタントが実施した調査は、同様な標本抽出法を用いたか否か定かではない。また、標本数（ベースライン調査：422人、本運営指導調査：206人）も異なり、その標本数の妥当性も不明である。よって、これらの2つの調査結果の比較には限界がある。

<sup>2</sup> 通常は、ある特定の時点での疾病の有する者の比率を示すPrevalenceを『有病率』と表記し、ある一定期間内での新規の感染や発病の比率Incidenceを『感染率』または『発病率』と表記する。しかし、HIVの場合は、疾病ではなくウィルスの感染の有無を示すので、Prevalenceを『感染率』と表記し、Incidenceを『新規感染率』と表記することが多い。本評価報告書も、これに従うこととする。

<sup>3</sup> ZAPSOの事務局長は、『すべてのプロジェクトはプロポーザル作成のためのニーズ調査ならびにプロポーザル採択後のベースライン調査の2つの調査を実施することになっており、本プロジェクトについても同様だった』と主張している。しかし、実際には少なくとも本プロジェクトのためには、ニーズ調査とベースライン調査の両調査とも実施されていない模様である。

## 第3章 プロジェクトの実績

### 3 - 1 投入実績

#### (1) 日本側

日本側では、本プロジェクト実施に際して、ローカルNGO（DAPP及びZAPSO）への委託経費を以下のとおり負担した。

費 目	DAPP	ZAPSO
傭人費	124,740.00	29,850.00
事業費（ワークショップ・モニタリング・教材費等）	186,600.00	27,900.00
機材（検査キット等）	-	163,500.00
施設整備	11,475.00	39,543.34
合計（計画）	322,815.00	260,793.34
合計（実績）	443,062.03	326,073.83
総 額		769,135.86 89,274千円 (1USD = 116.07円 2006年12月統制レート)

#### (2) ジンバブエ側

ジンバブエ側ではZAPSOにてVCTセンターのカウンセラー1名、及び受付1名の給与を負担した。

### 3 - 2 成果の達成状況と活動実績

#### (1) 成果1「対象住民がHIV/AIDSの知識を得る」

表3 - 1のとおり、本成果に付随してDAPPのフィールドオフィサー及びパッションネイト（ボランティア）がHIV/AIDSの予防啓発教育や講義・ワークショップを実施した。各家庭への個別訪問を通じた啓発教育に加え、学童期の児童対象には、学校を拠点に活動を展開し、演劇、クイズ大会、スポーツイベント等を通じた予防啓発活動が繰り広げられた。また、対象地区の妊婦に対してもHIV母子感染予防に関する啓発活動を行い、母子感染予防プログラムへの参加を促進した。

これら活動の結果、DAPPが独自開発した知識度テストの結果によると、対象地域で目標の10万人を上回る106,409人が80点以上の成績をあげ、HIV/AIDSに関する正しい知識を得たことが確認された。また、同テストではHIV/AIDSに関する以下のすべての項目について正答率が向上するとの結果が確認されており、成果は達成されたと判断される。

知識項目	2004年		2006年
HIV感染は予防できる	73%		100%
コンドームで感染リスク減少	53%		83%
パートナー特定化で感染リスク減少	59%		89%
禁欲で感染リスク減少	22%		83%
エイズは完治しない	90%		92%
HIVは母子感染しうる	49%		89%

2004年：DAPPベースライン調査（標本数422人）、2006年：本運営指導調査（標本数206人）

表3 - 1 成果1の達成状況及び活動実績

成果1：対象住民がHIV/AIDSの知識を得る	
<p>1. FO・PSNらの活動により、10万人がHIV/AIDSの重大性を認識し、HIV/AIDSの基本知識を得る</p> <p>【DAPP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マブク/タファラ地区を50区画に分割し、50名のFOが各々1区画を担当した。1区画当たりの人口は2,000人。</li> <li>FOは各担当区画の家庭を戸別訪問、世帯登録をし、各家庭の状況を調査（世帯構成、妊婦・OVCの有無など）する。そのうえで、一人一人にHIV/AIDS啓発教育を実施し、VCTサービスや母子感染予防プログラムへのアクセス促進、在宅ケアやOVC支援団体等地域のリソースの紹介等も行った。HIV/AIDSのみならず衛生、栄養、結核・マラリア、HIV/AIDS以外の性感染症等に関する健康教育も実施した。</li> <li>FO・PSNらは戸別訪問の結果、3年間で住民110,352人に一対一での対話によりHIV/AIDS予防啓発教育を実施した。3年間の登録世帯数は15,544世帯。</li> <li>上記住民のうち調査時点で106,409人がDAPP独自で開発した知識度テストにより正しい知識を得たことが確認された。</li> </ul>
<p>2. FO・PSNらが6,000回の講義・ワークショップ等を10万人に対し実施する</p> <p>【DAPP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年間で2,351回の講義・ワークショップを累計52,240人を対象に実施した。</li> <li>講義の内容はHIV/AIDS、差別偏見、陽性者の生活、収入創出活動、栄養等について。</li> </ul> <p>例：2年目、3年目にCSW対象の3日間ワークショップを開催した。内容はセイファーセックス、在宅ケア、マラリア対策、コンドーム教育、収入創出活動等であった。</p>
<p>3. FO・PSNらが400人の妊婦をPMTCTプログラムに紹介する。</p> <p>【DAPP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>FO・PSNは毎週水曜日と木曜日にマブクポリクリニックのANCで妊婦に対して母子感染予防に関する啓発活動（演劇、ビデオ上映、IEC教材配布等）を実施した。また、戸別訪問の際にも妊婦とその夫（パートナー）に対して母子感染予防に関する啓発教育を行った。</li> <li>その結果、3年間で2,891人の妊婦が母子感染予防教育を受け、マブクポリクリニックの母子感染予防プログラムに参加した。</li> </ul>

<p>4 . 学校内外に<u>30</u>の若者クラブを設立する 【DAPP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Mabvuku High 1 など地域の学校（計 5 校）で計720人の生徒を対象に演劇、クイズ大会などの予防啓発活動を実施した。</li> <li>・ またMabvuku Primary等（計 9 カ所）で計313人の児童・子供にもSugar Daddyなどのビデオ上映等を通じた予防啓発活動を実施した。</li> <li>・ 学校外でも92人の不就学児に対してHIV/AIDS、衛生、結核対策等の予防教育を実施した。その他、不特定多数の若者がスポーツイベントなど様々な地域でのキャンペーンに参加した。若者クラブの数は不明。</li> </ul>
-------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

( 2 ) 成果 2 「自発的カウンセリングと検査 ( Voluntary Counseling and Testing : VCT ) サービスを通じて対象住民が自らのHIV感染の有無を知る」

ZAPSO・VCTセンター来訪者数は3年間で6,097人にのぼった。国のガイドラインではカウンセラー1人当たり1日のクライアント数は8名までと定められている。上記データはセンターに勤務する3名のカウンセラーが質を担保しつつ効率的にサービスを提供した結果の人数として妥当な数である。

また、DAPPの活動により、HIV検査を受けた人数は10,851人にのぼった。これは以下のとおり、対象15歳以上人口の約18%を占めることとなり、ジンバブエ全国で約4%の成人人口がVCTセンターでHIV検査を受けていると推定される(UNAIDS 2005)ことから、18%という数値に関しては、DAPPの活動が一定の成果をあげていると判断できる。また、調査時に開催した評価会においても関係者から同様の意見が聞かれた。したがって、成果2はほぼ達成したと判断できる。

- ・ ( a ) 2004 ~ 2006年のDAPPのTCE活動によってカバーされたマブク / タファラ地区の全住民数 = 110,352人
- ・ ( b ) うち検査によりHIV感染の有無を知った人数 = 10,851人
- ・ ( c ) ジンバブエにおける15歳以上人口比 = 55%
- ・ ( d ) DAPPのTCE活動によってカバーされた地区の全住民数のうち検査によりHIV感染の有無を知った人数比 = ( b ) / [ ( a ) × ( c ) / 100 ] = 18%

表 3 - 2 成果 2 の達成状況及び活動実績

<p>成果 2 : VCTサービスを通じて自らのHIV感染の有無を知る</p>	
<p>1 . ZAPSO・VCTセンター( 1 カ所 ) の設立・運営開始 【ZAPSO】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2003年12月から2004年4月まで、VCTセンターの整備、カウンセラー等スタッフリクルート、保健省・ハラレ市保健局・ハラレ市への開設許可申請準備を行った。</li> <li>・ 2004年3月29日にセンターの開所式を行い、5月10日から地域で唯一の独立型VCTセンターとして営業を開始した。開所式には保健大臣、DAPPら関係者が参列し、VCTセンターが大衆に広く認識されることとなった。</li> <li>・ ZAPSO・VCTセンター設立以前はVCTサービスを受けるためには他地域へ行かなければならなかったが、ZAPSO・VCTセンター開設により、住民は交通費を使わなくても受診可能</li> </ul>

	<p>となり、アクセス改善へ貢献した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト開始からVCTセンター営業開始までは、VCTセンターの広報、DAPP・FOに対してVCTサービスに関する講義を実施した。</li> </ul>
<p>2 . ZAPSOがVCTサービスのマーケティングを行う</p> <p>【ZAPSO】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレット、ポスター等のIEC教材をプレテストを経て開発、配布した。IEC教材は英語・シヨナ語版を作成した。</li> <li>・対象地区以外のRuwaやEpworthからもクライアントが来訪していることから、マーケティングの効果は現れていると考えられる。</li> </ul>
<p>3 . FO・PSNらが15歳以上住民1,000人をVCTサービスに紹介する</p> <p>【DAPP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FO・PSNらの啓発活動により3年間で10,851人がHIV検査を受けたと報告した。これはDAPP-TCE活動が対象とした15歳以上人口のうち約18%であった。</li> <li>・検査を受けた場所はZAPSO・VCTセンター、マブクポリクリニックなどであるが、特定は不可能である。</li> </ul>
<p>4 . ZAPSO・VCTセンターがVCTサービスを提供する</p> <p>【ZAPSO】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約2年半で6,097人がZAPSO・VCTセンターでVCTサービスを受け、自らのステータスを知った。受診者の42%が男性、58%が女性。全体での陽性率は40%であり、陽性者の70%以上が女性であった。</li> <li>・国で定められている基準に従いサービスを提供した。検査キットは常に確保されおり、サービスの提供に支障はきたさなかった。</li> </ul>

(3) 成果3「安全な性行動などの行動変容が促進される」

上記(1)に既述のとおり、HIV/AIDSに関する知識は向上したにもかかわらず、コンドームの使用状況については大きな変化が見られなかった。

前回の性交渉時にコンドームを使用した：

66% (2004年：DAPPベースライン調査) 66% (2006年：本調査)

しかしながら、運営指導調査において実施したフォーカス・グループ・ディスカッションでは、陽性者の男性が他者への感染防止や自らの再感染防止のために性交渉時には必ずコンドームを使用していること、Commercial Sex Worker (CSW) が性産業から身を引いて収入創出活動を始めた、現職の6名のCSWが性交渉時には必ずコンドームを使用していると述べるなど、行動変容の事例が確認されている。

また、インタビュー調査では、大多数の人々がkugarwa nhaka (wife inheritance = 妻の相続：夫を亡くした妻がその夫の兄弟に新妻として引き取られる) 習慣を行っていないことが判明し、HIV感染拡大防止に寄与する良い兆候が確認された。以上のことから、成果3については達成の兆しが確認されたと言えよう。

表 3 - 3 成果 3 の達成状況及び活動実績

成果 3 : 安全な性行動などの行動変容が促進される	
1 . 50万個のコンドーム配布及び配布場所の確保を行う 【DAPP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ FO・PSNらがコンドーム・デモンストレーションと配布を実施し、3年間で約74万個のコンドームを配布した(88%男性用、12%女性用)。</li> <li>・ Positive Living Dynamiteがトラック運転手を対象にコンドームを配布したり、ビアホールや酒屋、床屋などで異なるターゲットグループごとにコンドーム・デモンストレーションと配布を実施するなど、多様な方法でコンドーム利用促進が図られた。</li> <li>・ また、コンドーム配布場所がビアホールなどに設けられ、PSNらによってコンドームの補給が行われている。</li> </ul>
2 . ZAPSO・VCTセンターでヘルスプロモーション活動を行う 【ZAPSO】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検査前後のカウンセリング及び継続的支援カウンセリングで安全な性行動に関するカウンセリングを実施した。</li> <li>・ また、VCTセンターの待合スペースにはコンドームやIEC教材(各種パンフレット)が置かれ、来訪者は自由に持ち帰ることができる状態になっている(配布数などは不明)。</li> </ul>
(補足) 成果 3 の活動は上記のみならず、成果 1 の活動(一対一での啓発活動、講義・ワークショップ、母子感染予防教育、若者への啓発など)も本成果に寄与している。	

(4) 成果 4 「対象地区においてHIV/AIDSサポートネットワークが構築され、住民がサポートネットワークに容易にアクセスができる」

プロジェクトを通して、マブク/タファラ地区におけるHIV/AIDSの予防、ケア、サポートすべての側面における包括的サポートネットワーク(医療機関、遺児支援団体等)が構築された。具体的には、DAPPによるTCE活動やZAPSOによるVCT活動の結果、陽性者を中心とした、抗レトロウイルス薬療法(Antiretroviral Treatment: ART)、母子感染予防ケア、自宅ケア、日和見感染ケア、教会を中心とする精神的支援、孤児と脆弱児童ケアに関し、相互のリファラル機能を持ったサポートネットワークが確立した。

また、DAPPのTCE活動、ZAPSOのVCTセンターとマブクポリクリニックの三者間で構築された母子感染予防プログラムに対するネットワークの事例から、ZAPSOとDAPPが地域のHIV/AIDSサポートネットワークの中に統合され機能していることが示唆される。以上のことから、成果 4 は達成されたと判断される。

表3 - 4 成果4の達成状況及び活動実績

成果4：HIV/AIDSサポートネットワークが構築され、住民が容易にアクセスできる	
<p>1．50人の陽性者とその家族がHIV/AIDSに対する対策を講じることが可能となる 【DAPP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・184名の陽性者がHIV/AIDS教育、衛生、食事療法、栄養とハーブなどのトレーニングを受けた。また、PSNの中で「Positive Living Course（陽性者の生活に関する6カ月のコース）」を受けた者はPositive Living Dynamiteとして陽性者団体を形成し、収入創出活動を実施している。</li> <li>・陽性者の家族に対する活動の実際については不明である。</li> </ul>
<p>2．30人の在宅ケアボランティアをトレーニングする。既に活動しているボランティアが効果的に地域で活動できるように援助する 【DAPP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・150人の在宅ケアボランティアが保健省推奨の在宅ケア基本キットに関する再トレーニングを受けた。</li> </ul>
<p>3．OVCの登録数が増加する。また直接1,000人のOVCを援助する 【DAPP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1,000人以上のエイズ孤児とHIV/AIDSのため弱い立場にある子どもたち（Orphans and Vulnerable Children：OVC）の所在を確認、DAAC等を通じて支援施設やグループへの紹介を行った（詳細な統計なし）。</li> <li>・OVCは紹介先支援団体から食料、Tシャツ、学費等を受け取った。</li> </ul>
<p>4．（栄養ケアなどの健康教育活動） ・100人に大豆調理法のトレーニングを行う ・大豆レストランを10店舗と大豆配布所を設立する 【DAPP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・643人が大豆調理法のトレーニングを受けた（うち12人がマブクポリクリニックスタッフ、66人が結核患者）。</li> <li>・大豆レストラン設立は実現しなかった。</li> </ul>
<p>5．3,000人を性感染症治療に紹介する 【DAPP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自覚症状を訴えた1,012人を性感染症治療のために医療機関へ紹介した。</li> </ul>
<p>6．ZAPSO・VCTセンターからのリファラルシステムの構築 【ZAPSO】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・VCTセンターと図3 - 1に示されるネットワークが構築された。</li> <li>・性感染症治療、ART、日和見感染ケアのためのマブクポリクリニックへの紹介のみならず、陽性者団体、OVC支援団体への紹介も行ってきた。</li> <li>・さらに、マブクポリクリニックや地域の開業医からHIV検査キットの不足の際などにHIV確定診断のためにZAPSO・VCTセンターへクライアントが逆紹介されることがあり、診断センターとしての役割も果たしている。</li> </ul>

<p>7 . ZAPSO・VCTセンターと性感染症治療・家族計画サービスとの連携</p> <p>【ZAPSO】</p>	<p>・センターにてPRP検査（梅毒検査）は実施できなかったが、マブクポリクリニックとのPRP検査や家族計画サービスに関する連携関係が構築された。</p>
<p>補足：上記活動以外にも、成果1の母子感染予防教育活動があげられる。DAPPの活動により妊婦がマブクポリクリニックの母子感染予防プログラムに参加している。さらに、母子感染予防プログラムでHIV検査キットが不足した際にはマブクポリクリニックはZAPSOのVCTセンターに紹介している。</p> <p>また、地域の宗教指導者がZAPSO・VCTセンターでHIV検査を受けたことにより、宗教関係者間のHIV/AIDSに対する関与が高まり、教会の中で陽性者への精神的支援も行われるようになった。</p>	

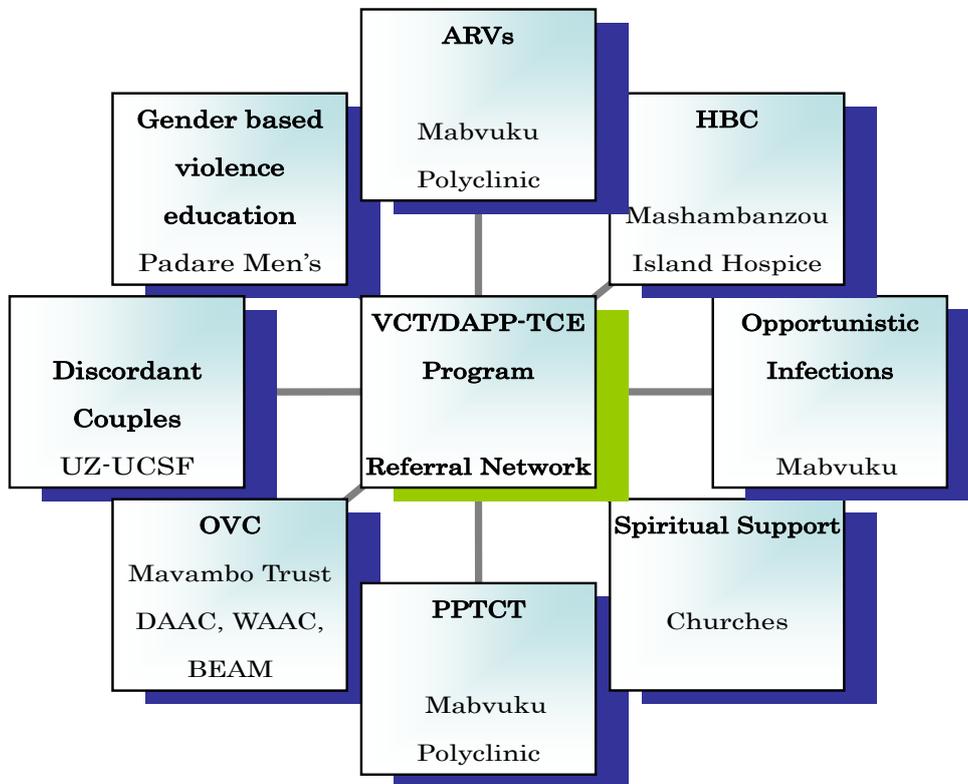


図3 - 1 HIV/AIDSサポートネットワークの概念図

(5) 成果5「対象地区出身のフィールドオフィサーのHIV/AIDS対策知識とサービス提供能力が強化される。

表3 - 5 に示すとおり、フィールドオフィサー50名とパッションイト（ボランティア）9,178名が各種トレーニングを受講しており、能力強化が達成された。

表 3 - 5 成果 5 の達成状況及び活動実績

成果 5 : 対象地区出身のフィールドオフィサーのHIV/AIDS対策知識とサービス提供能力が強化される	
1 . 50人のフィールドオフィサーをリクルートし、養成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ DAPPが地域で活動を行うにあたりDAAC等の関係者の了解を得たうえで、公共の場に募集の紙を貼り出し地区出身50人のFOの募集・採用を行った。</li> <li>・ FOはまず1週間の訓練を受け、地域での活動を開始した。また、DAPPの活動を行うために必要な予防教育やカウンセリングスキルを身につけるためのトレーニングを受講した。</li> <li>・ また、毎週金曜日にFOが集まり、1週間の活動報告、進捗の確認を行った。さらには、DAPPの指導的立場の人から活動のモニタリング・指導を受けた。</li> </ul>
2 . 2,000人のパッションネイト(ボランティア)がフィールドオフィサーの補助を行い、対象地区全員への働きかけを行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初年度にPSNをリクルート・養成するため「Passion for People Movement」というテーマの活動を行った。PSNは在宅ケアなどHIV/AIDSの知識、カウンセリングやリーダーシップ能力に関するトレーニングを受講し、FOの啓発活動を補佐した。</li> <li>・ 3年間で9,178人のPSNを養成し、そのうち2,500人が現在も活動を継続している。</li> <li>・ また、PSNはハーブ育成などの収入創出活動を開始し、594カ所のHIV/AIDS関連図書置き場を管理している。</li> </ul>

### 3 - 3 プロジェクト目標の達成度

<プロジェクト目標>

「マブク/タファラ地区においてHIVの新規感染が減る」

プロジェクト目標はHIV新規感染率の減少であるが、新規感染率（Incidence）の計測は困難であったため、感染率（Prevalence）を代替指標として用いてプロジェクト目標の達成度を推定し、併せて考察を加えた。

図 3 - 2 は、ZAPSOが運営するVCTセンター利用者のデータに基づくマブク/タファラ地区でのHIV感染率と、DAPPが同地区内で実施したTCE啓発活動で登録・カバーされた住民の人数（参加者数）の経年変化を示したものである。参考のため、2000～2004年のVCTセンター利用者データに基づく全国のHIV感染率も併せて図 3 - 2 内に示した。

プロジェクトの初年度にあたる2004年は、HIV感染率が女性40%・男性18%であった。翌2005年には女性55%・男性35%と上昇し、男女ともに前年比の1.4倍（女性）～1.9倍（男性）となった。しかしながら、2006年<sup>4</sup>は女性52%・男性36%とほとんど2005年度と同様な感染率となった。

このことから、プロジェクト目標となっているHIV新規感染率の減少の兆候が現れている可能性が高い。ただし、本プロジェクト開始前に既にHIVに感染していた者が啓発活動によって

<sup>4</sup> 2006年はデータの不備のため、7～9月の3カ月分の限られた期間のHIV感染率を示した。

VCTサービスを利用し、検査の結果HIV陽性となった場合は、プロジェクト期間内の新規感染のケースとは言えない。よって、HIV感染率の推移を解釈する際、啓発活動が順調に展開されればされるほど、高くなる可能性があることに留意すべきである。

さらに、本人もしくはその家族にエイズ発症と思われる症状や兆候があることを理由に、マブク/タファラ地区のVCTセンターを来所する者が少なからずいることが確認されている<sup>5</sup>。換言すれば、VCTサービス利用者のHIV感染率は、一般住民のそれに比して潜在的に高いことになる。

いずれにせよ、今回のTCEとVCTの両サービスならびにそれらの相乗作用により、プロジェクト目標に設定したHIV感染率が減少したか否かを正しく判断するのは時期尚早であり、更なる時間を要すると言わざるを得ない。ただし、本プロジェクトの各成果（正しい知識の習得、VCTセンターの利用促進、行動変容の促進、包括的なサポートネットワークの構築等）は確実に新規感染の減少につながるものであり、上記3 - 2で述べたとおり、各成果の達成状況は概ね良好であるため、今後、HIV新規感染率の減少が見られる可能性は高いと言えよう。

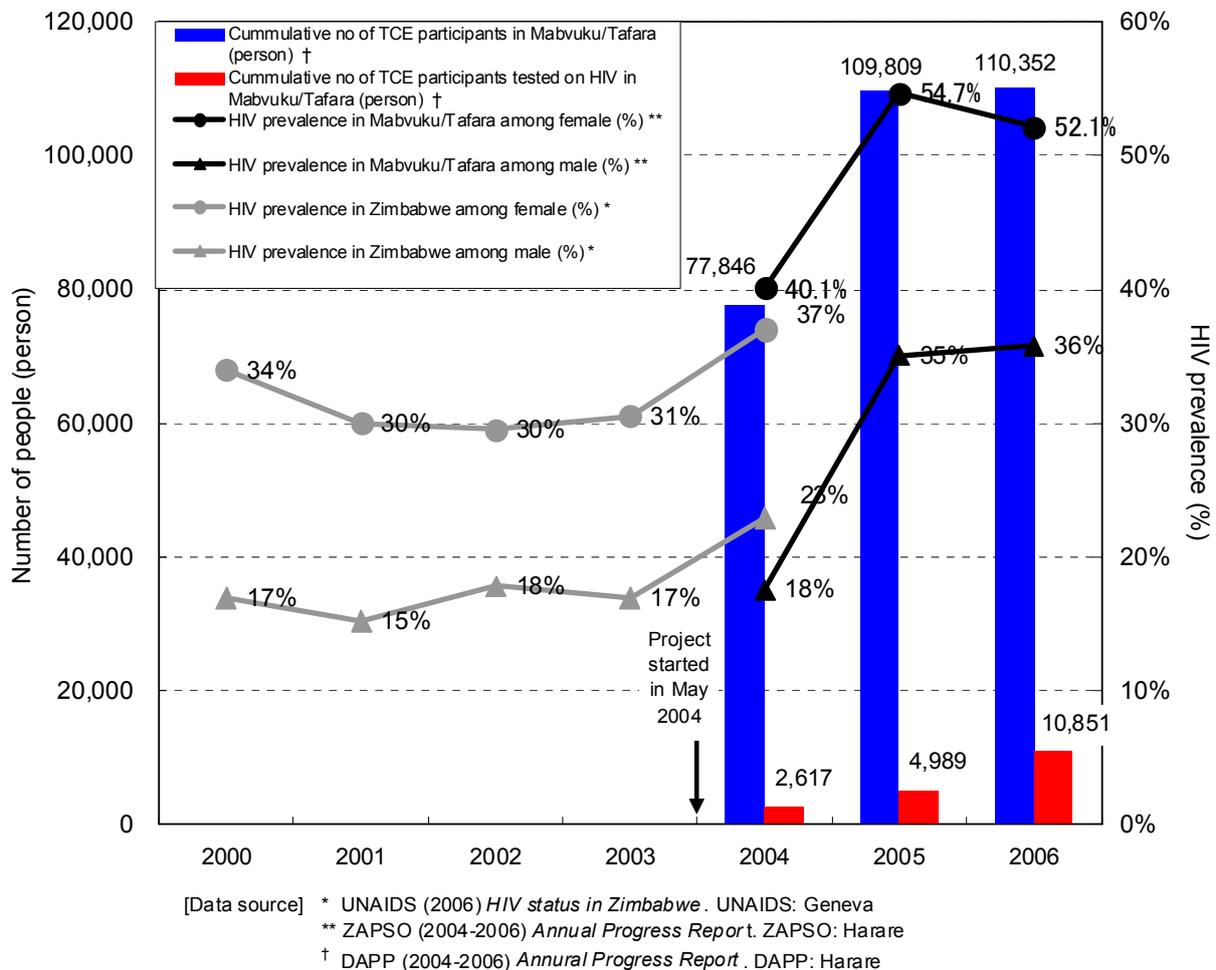


図3 - 2 VCTセンター利用者のHIV感染率とTCE登録者数の推移

<sup>5</sup> ZAPSOのカウンセラーならびにVCTサービスの利用者とのインタビューによる。

## 第 4 章 評価結果

### 4 - 1 評価 5 項目の評価結果

#### ( 1 ) 妥当性

以下のとおり、本プロジェクトの妥当性が高いことが確認された。

- ・ジンバブエのHIV陽性率は20.1%とサブサハラ地域においても高く、対象地区の位置するハラレ市の陽性率はさらに高いことからプロジェクトを実施する優先度が高い。
- ・治療の拡大やHIV/AIDSの正しい知識が普及している中、住民のVCTサービスへの需要は高く、ZAPSO・VCTセンターはマブク/タファラ地区における、唯一の独立型VCTセンターとして住民の需要に応えている。最近ではマブクポリクリニックでHIV検査キットが不足している場合など、VCTセンターはHIV診断センターとしての役割も果たすようになっており、地域の医療機関からの需要も高い。
- ・本プロジェクトではジンバブエのHIV/AIDS国家戦略と合致した活動〔VCTセンター拡充、予防啓発活動、エイズ孤児とHIV/AIDSのため弱い立場にある子どもたち（Orphans and Vulnerable Children：OVC）への支援等〕を行っていることから妥当性は高い。また、日本のジンバブエに対する援助重点分野とも合致している。

表 4 - 1 妥当性の詳細評価結果

調査項目	調査結果	データ源
<p>受益者のニーズ</p>	<p>『極めて良好』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト開始時（2004年）のマブク/タファラ地区のVCT利用者におけるHIV感染率（女性：40%、男性：18%）は、全国平均値（女性：37%、男性：23%）に匹敵していた。にもかかわらず、プロジェクト開始前は、同地区内にVCTセンターはなかったため、機会費用と経済的費用をかけて他地区のVCTセンターに行かざるを得ない状態にあった。対象地域住民のVCTサービスへのアクセスの需要は高かった。</li> <li>・プロジェクト開始時の同地区において Condom で HIV 感染リスクを低下できることを知る15歳以上の者の比率は、53%と低かった。HIV/AIDSに関する知識を得る住民のニーズは高かった。</li> <li>・プロジェクト開始時の同地区において15歳以上の住民の67%がHIV検査をどこで受けられるか知りながら、実際にHIV検査を受けた者の比率は22%と極めて低かった。すなわち、HIV感染の有無を知るニーズは高かった。</li> <li>・プロジェクト開始時は、同地区内のHIV/AIDS等による孤児のわずか32%のみが孤児登録がなされ、何らかのケア・サポートを受けていたにとどまっていた。ケア・サポートを必要とする孤児の比率は高かった。</li> </ul>	<p>DAPP実施のベースライン調査報告書</p> <p>その他の資料</p>

ジンバブエの開発政策・戦略との整合性	『概ね良好』 ・ HIV/AIDS対策が『ジンバブエ経済社会構造改革計画』の中において、最重要施策の1つとなっている。保健省の『2002年度活動計画』では、HIV/AIDSに対する意識向上とVCTの拡充が、HIV/AIDS対策の重要な柱として位置づけられた。よって、被援助国側の政策・戦略の観点から本プロジェクトの妥当性はある。	ジンバブエ政府発刊の各資料
日本の開発政策・戦略との整合性	『概ね良好』 ・ 2000年の九州沖縄サミットにおいて『沖縄感染症対策イニシアティブ』を発表し、開発途上国における感染症対策支援への貢献を表明した。2002年JICAは『南部アフリカHIV/AIDS域内ワークショップ』にてジンバブエを含む南部アフリカ諸国におけるHIV/AIDS分野での支援の重要性を確認した。よって、援助国側の政策・戦略の観点から本プロジェクトの妥当性は確保できている。	外務省発刊の各資料  JICA発刊の各資料
国際開発全般の潮流との整合性	『概ね良好』 ・ 2000年に国連総会にて採択された『ミレニアム開発目標MDGs』において、2015年までにHIV/AIDSを抑止することが合意された。よって、国際開発全般の潮流との整合性はとれており、本プロジェクトの妥当性は確保できている。	国際機関発刊の各資料
妥当性の総合評価	『極めて良好』	

## (2) 有効性

プロジェクト目標は対象地区において「HIVの新規感染を減らす」ことであるが、3-3の項にて既述のとおり、新規感染率のデータの入手は困難であり、本プロジェクトでは指標化の難しい目標設定を行っていた。直接的に測定可能な指標は存在しないが、本プロジェクトの成果の設定は新規感染の削減につながるものであり、各成果が達成されているため、プロジェクトの有効性は概ね良好であると判断される。

具体的には、対象地区の住民がHIV/AIDSに対する正しい知識を身につけた結果、VCTセンター利用が促進されたこと(対象成人人口の約18%がHIV検査を受診)、男性の巻き込み(男性団体との連携など)、コンドーム配布及び利用促進、陽性者団体支援活動等、HIV新規感染削減へ向けた包括的取り組みが行われたことなどから、各成果のプロジェクト目標に対する貢献度は大きいと推定される。

表 4 - 2 有効性の詳細評価結果

調査項目	調査結果	データ源
マブク/タファラ地区のHIV新規感染率が低下する (プロジェクト目標)	『やや難あり』 女性の場合：【2004年】40% 【2005年】55% 【2006年】52% 男性の場合：【2004年】18% 【2005年】35% 【2006年】36% ・このHIV感染率(Prevalence)の推移の解釈は困難であるが、マブク/タファラ地区においてHIV新規感染率(Incidence)の低下がし始めている可能性がある。しかし、より正確には評価時点では時期尚早であり判断しかねる。	DAPP実施のベースライン調査報告書 マブク/タファラ地区住民への構造化面接調査
マブク/タファラ地区の住民がHIV/AIDSの正しい知識を得る	『極めて良好』 HIV感染は予防できる：【2004年】73% 【2006年】100% コンドームで感染リスク減少：【2004年】53% 【2006年】83% パートナー特定化で感染リスク減少：【2004年】59% 【2006年】89% 禁欲で感染リスク減少：【2004年】22% 【2006年】83% エイズは完治しない：【2004年】90% 【2006年】92% HIVは母子感染しうる：【2004年】49% 【2006年】89% ・HIV/AIDSに関する知識は上記のすべての項目について向上した(図4-1及び図4-2参照)。	(同上)
マブク/タファラ地区の住民がVCTを通じてHIV感染の有無を知る	『概ね良好』 (a) 2004~2006年のDAPPのTCE活動によってカバーされたマブク/タファラ地区の全住民数 = 110,352人 (b) うち検査 <sup>6</sup> によりHIV感染の有無を知った人数 = 10,851人 (c) ジンバブエ国における15歳以上人口比 = 55% <sup>7</sup> (d) DAPPのTCE活動によってカバーされたマブク/タファラ地区の全住民数のうち検査によりHIV感染の有無を知った人数比 = (b) / [ (a) × (c) / 100 ] = 18% ・これは、TCE活動が2006年から、各世帯・各人への再訪問によるHIV検査の受診の更なる促進・勧告の効果によ	(同上)

<sup>6</sup> 必ずしも、ZAPSOが運営するVCTセンターで検査を受診したとは限らず、同地区内のマブクポリクリニックや他地区のVCTや医療機関にてテストを受診するケースもある。

<sup>7</sup> <http://earthtrends.wri.org/text/population-health/country-profile-205.html> (2006年12月5日アクセス)

	<p>るものと考えられる。ZAPSOが運営するVCTセンターでの検査によりHIV感染の有無を知った累積人数は、以下のとおり。</p> <p>【2004年】1,235人 【2005年】4,725人 【2006年】6,097人</p> <p>・ VCTセンターによると、同センターでのHIV検査の受検者のほとんどすべてがマブク/タファラ地区であるという。しかし、そのうちDAPPのTCE活動に誘引されてHIV検査を受検した者の数は特定できない。</p>	
マブク/タファラ地区にHIVサポートネットワークへのアクセスが確保される	<p>『概ね良好』</p> <p>・ DAPPによるTCE活動やZAPSOによるVCT活動の結果、HIV感染が確認された者を対象とした、以下のような相互のリファラル機能を持ったサポートネットワークが着実に確立されつつある。</p> <p>ARV、 母子感染予防ケア、 自宅ケア、 日和見感染ケア、 教会を中心とする精神的支援、 孤児と脆弱児童ケア</p>	マブク/タファラ地区住民とのFGD  マブク/タファラ地区の観察
マブク/タファラ地区でコンドーム使用等の性行動変容が見られる	<p>『やや難あり』</p> <p>前回の性交渉にコンドーム使用：【2004年】66% 【2006年】66%</p> <p>・ HIV/AIDSに関する知識は向上したにもかかわらず、コンドームの使用状況は大きな改善や変化が見られない（図4 - 2 参照）。</p>	（同上）
有効性の総合評価	『概ね良好』	

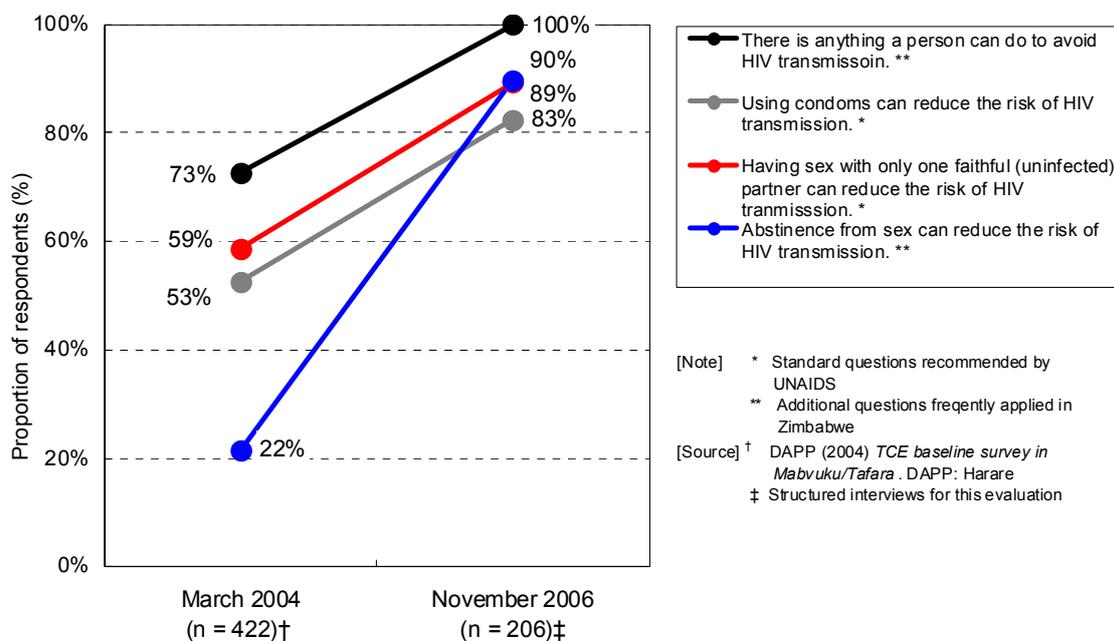


図4 - 1 HIV感染の予防に関する知識

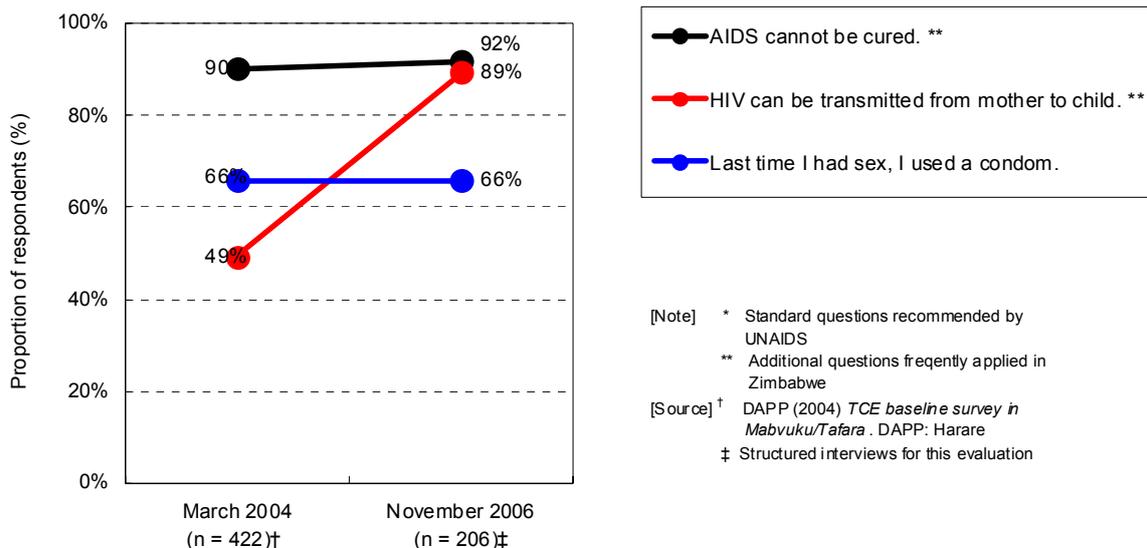


図 4 - 2 他のHIVに関する知識とコンドーム使用状況

### ( 3 ) 効率性

各成果の達成度から見て、プロジェクトは効率的に行われたと判断される。

特に、文化的状況に大きな影響を受けるHIV/AIDSというセンシティブな課題に対して、現地NGOの活用により、現地言葉を用い、文化的背景を理解できる現地スタッフによる活動が可能となり、成果の達成のために適切かつ効率的な投入が行われた点は評価されよう。

また、DAPPはモザンビーク等周辺諸国で用いた経験のあるTCEという手法を取り入れ、既存のIEC ( Information, Education and Communication ) 教材を活用することで円滑な活動が可能となった。既存の教材の活用という点においては、対象地区住民の言語 ( ニャンジャ語 ) への翻訳、最新の情報への更新など改善の余地も認められたが、TCE手法の導入は本プロジェクトの効率性に大きく寄与した。

一方、DAPPとZAPSOの両団体の活動の効率性をさらに高めるため、連携促進のための工夫が必要であった。例えば、定期会合の開催により互いの活動進捗を確認することで、互いのリソースを有効活用することも考えられたであろう。

費用対便益に関しては、DAPPによるTCE活動の受益者単価は1.88 [ USD / 人・年 ] であり、当初の設定1.00 [ USD / 人・年 ] を上回った。しかし、ジンバブエの年率1,000%を超えるインフレによる活動費への影響、2005年5月の政府のクリーンアップ作戦による活動への影響 ( 人口流入による世帯登録のやり直し等 ) などの外部要因を鑑みると概ね良好と判断される。

ZAPSOによるVCT活動の受益者単価は、2004年度166.46 [ USD / 人 ]、2005年度25.29 [ USD / 人 ]、2006年度24.49 [ USD / 人 ] であった。ZAPSOについては初期投資があった初年度は比較的高額となったが、以降は約25 [ USD / 人 ] であり、独立型VCTセンターにおける経費としては妥当な範囲であると判断される ( 参考：ジンバブエの他団体VCTセンターでは29USD )。

効率性を高めた要因としては、DAPPの啓発活動によりVCT利用への需要が高まったこと、対象地区が人口密集地域であることなどが考えられる。

表 4 - 3 効率性の詳細評価結果

調査項目	調査結果	データ源
日本・ジンバブエ側投入の適正度	<p>『概ね良好』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジンバブエ側：HIV/AIDSは社会文化的に微妙な課題である。よって、ジンバブエ人によって構成される現地NGOは、適切かつ効率的な投入であった。DAPPとZAPSOが採用した世帯戸別訪問による啓蒙活動とVCTは、既にジンバブエ国内で一定の成果をあげている Proved Technologyであったので、適正なアプローチであったと言える。しかし、DAPPとZAPSOに重複する活動が、マブク/タファラ地区内での地理的割振り等の補完性を十分に考慮しないまま行われた。これは、効率性を低下させた可能性がある。</li> <li>・日本側：DAPPとZAPSOの2つのNGOの活動が効率的にかつ補完的に実施され、相乗効果が発現されるよう、全体を調整・管理する日本人専門家の派遣が当初計画されていた。しかし、長期・短期専門家のいずれも派遣されることなく3年間のプロジェクトは終了した。この点で日本側の投入は不十分であったと言える。</li> </ul>	<p>プロジェクト関係文書</p> <p>DAPP・ZAPSO職員との半構造化インタビュー</p> <p>JICAジンバブエ事務所・南アフリカ広域事務所の職員との半構造化インタビュー</p>
投入の活用度	<p>『概ね良好』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DAPP：JICA資金による投入は、概ね適切かつ計画どおり活用された模様である。</li> <li>・ZAPSO：JICA資金により調達された投入のうち、以下の物品ならびに費目がプロジェクト現場での活動へ直接投入されたものではなく、効率性を低下させている。本来JICAからの資金は、本プロジェクトの直接費用として用いられるべきである。</li> </ul> <p>【ハラレ中心部のZAPSO本部で使用】 皮製ソファ1台、高級事務機・椅子1台、クーラーボックス1個、はさみ2個、事務局長の人件費</p> <p>【市内クリーンアップ事業で没収・処分】 スプーン12個、プラスチック製カップ11個、プラスチック製皿8個</p>	<p>DAPP・ZAPSO職員との半構造化インタビュー</p> <p>プロジェクト現場ならびにDAPP・ZAPSOの事務所での観察</p>
費用対効果、費用対便益	<p>『やや難あり』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DAPP：(a) 総投入額 = USD443,062.<sup>03</sup> (b) TCEの住民訪問・再訪問の総回数 = 235,435 [人・年] (c) TCE活動の受益者単価(a)/(b) = 1.<sup>88</sup> [USD/人・年]</li> </ul> <p>この額は、TCE活動（住民啓蒙活動、サポートネットワーク構築等のすべてを含む）のプロポーザル中で計画していた1.<sup>00</sup> [USD/人・年] を上回っている。よって、</p>	<p>プロジェクト関係文書</p> <p>DAPP・ZAPSO職員との半構造化インタビ</p>

	<p>プロジェクト開始時の計画どおりの費用対便益を達成できなかった。</p> <p>・ ZAPSO : ( a ) 総投入額 = USD326,073.<sup>83</sup>  ( b ) VCTサービス利用者数≈HIV検査受検者数 = 6,097[ 人 ]  ( c ) VCT活動の受益者単価 = ( a ) / ( b ) = 53.<sup>48</sup>[ USD / 人 ]</p> <p>本プロジェクトにおける活動の大部分がVCTセンターでの活動であることから、上記 ( c ) が費用対便益を示す指標として適当である。プロジェクト開始時に既存の建物をVCTセンターにするための改装や機材・家具の調達等の一定の投資が必要となり、53.<sup>48</sup>[ USD / 人 ] と比較的高額<sup>8</sup>となった。</p>	<p>ユー</p> <p>JICAジンバブエ事務所・南  アフリカ広域事務所の職員との半構造化インタビュー</p>
<p>効率性の総合評価</p>	<p>『概ね良好』</p>	

#### ( 4 ) インパクト

上位目標「住民の健康状態の改善」は高い目標設定であり、今次評価において、想定されたインパクトを直接確認することは困難であった。しかし、対象地区での全般的な健康状態の改善につながると予測される2つの要因( HIV/AIDSを中心とした包括的健康教育、地域の医療組織との連携構築)は確認することができた。

プロジェクト実施による正のインパクトとして、1) HIV/AIDSに関するオープンな機運(陽性ステータスの公表)と、2) 脆弱層(CSWなど)の自信の向上と収入創出活動が認められた。さらには、DAPPの「Positive Living Course(陽性者の生活に関する6カ月のコース)」にマブクポリクリニックの看護師が自主的に参加するなど、医療従事者の巻き込みも行われた。また、同クリニックがDAPPの母子感染予防教育の効果を認め、本プロジェクト終了後にDAPPの活動を見習う形で独自にHIV母子感染予防プログラム内での予防啓発活動を実施することとなるなど、想定外のインパクトも確認された。

一方、負のインパクトとして、ZAPSO・VCTセンターのカウンセラーが結果として偶然、全員女性であったため、VCTサービスを受けたいと考える地域の男性のサービス利用を十分促進できなかった可能性が残された。

<sup>8</sup> Population Services International (PSI) がジンバブエにて運営するNew Star VCTセンターの2005年度の利用者1人当たりの費用は29 [USD / 人] である (PSI. *Marketing HIV counseling and testing newsletter*. August 2006)。また、WHOによると、隣国のケニアとタンザニアでは27～28 [USD / 人] との報告もある (<http://www.google.com/search?q=cache:B7DkAa2CaRkJ:www.who.int/hiv/topics/vct/testing/en/+vct+price+per+client&hl=ja&gl=jp&ct=clnk&cd=4>、2006年12月2日アクセス)。

表4-4 インパクトの詳細評価結果

調査項目	調査結果	データ源
マブク/タファアラ地区の住民の健康状態の改善の可能性・見込み	<p>『概ね良好』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HIV/AIDS以外の健康教育：DAPPのTCEによる健康教育・増進活動は、安全な水、衛生行動、マラリア等のHIV/AIDS以外にも健康に関わるトピックを盛り込んでいる。よって、HIV/AIDSのみならず、健康状態の全般的な改善に寄与する可能性が確認された。</li> <li>・リファラルシステム：JICAならびに保健省のいずれもDAPPとZAPSOの間を特段調整等をしなかった。しかし、これらの2つのNGOの活動をマブクポリクリニックが取り持つ形で緩やかな自然発露的なリファラルシステムが徐々に構築されつつある。これにより、HIV/AIDS以外の健康問題を有する住民が同ポリクリニックに照会され、治療や予防サービスを受けることが可能になると考えられる。</li> </ul>	<p>プロジェクト関係文書</p> <p>DAPP・ZAPSO職員との半構造化インタビュー</p> <p>マブク/タファアラ地区住民とのFGD</p>
直接的・間接的なプラスの影響	<p>『極めて良好』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HIV/AIDSに関するオープンな機運：HIV感染者であることを自ら他人に語り始める雰囲気と素地が、マブク/タファアラ地区内で徐々に醸成されつつある。例えば、2006年11月時点で、成人の81%（男性80.6%、女性80.3%）がHIV検査に関してパートナー以外の人と過去3カ月以内に話し合ったことがある。</li> <li>・脆弱層の自己効力感：HIV感染者に対する汚名と差別は、徐々に弱まりつつあるものの、なお根強く残っている。しかし、HIV感染者がDAPPの後押しを受けて、支援グループを自ら組織してきている。自信を持って生きるための連帯を形成し、収入創出活動を進めている。これにより、彼らは、生きがいと生きる自信を再獲得しつつある。また、性産業から布製品の製造・販売等の別の生計手段に転換したCSWが少なからずいる。</li> </ul>	<p>マブク/タファアラ地区住民への構造化面接調査</p> <p>プロジェクト現場ならびにDAPP・ZAPSOの事務所での観察</p>
直接的・間接的なマイナスの影響	<p>『やや難あり』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェンダー：HIV/AIDSは繊細な話題であるだけに、同性にカウンセリングを受けることを望む利用者が少なからずいる。VCTセンターのカウンセラーはすべて女性であるため、VCTサービスを受けたいと考える男性は、サービスを利用しにくい可能性がある。</li> <li>・近隣コミュニティへの影響：隣接コミュニティは、マブク/タファアラ地区から離れているため、プラス・マイナスのいずれの影響も受けていない模様である。</li> </ul>	<p>プロジェクト関係文書</p> <p>マブク/タファアラ地区住民とのFGD</p>
インパクトの総合評価	『概ね良好』	

( 5 ) 自立発展性

DAPPのTCE活動は、地域住民から選ばれ、プロジェクトにより養成されたパッションネイト（ボランティア）が引き続き啓発活動を担うことが期待される。パッションネイトの自主性は高く、プロジェクトで収入創出活動を組み入れた形で活動が行われており、いまも2,500人が活動を継続している。DAPPが対象地区の人口の3分の1に相当する約11万人に啓発活動を実施したことにより、地域住民のHIV/AIDS対策能力の底上げがなされ、地域でHIV/AIDS対策が自立発展していく基盤が整えられた。

さらに、DAPPの別のHIV/AIDS関連プロジェクトである「Hope」が対象地域で活動を開始する予定であり、ボランティアの活動への支援が実施される予定である。

一方、ZAPSOもVCTセンター運営継続の意思を示しているが、財源確保ができる確証は得られていない。財源確保への更なる取り組みと保健省との連携により、自立発展性が見込まれるであろう。

表 4 - 5 自立発展性の詳細評価結果

調査項目	調査結果	データ源
実施NGOのJICA支援終了後の事業継続についての方針	<p>『概ね良好』または『やや難』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ DAPP : DAPPによるTCE活動は、日常的に継続して行うものではなく、数年間集中して行うものと定義されている。よって、3年間に及ぶマブク/タファラ地区でのTCE活動が終了した時点で、同地区での活動は予定していない。</li> <li>・ ZAPSO : ZAPSOの事務局長によると、『いったん、保健省の承認を得て開設し運営を始めたVCTセンターを簡単に閉鎖することは法律上できず、道義的にも望んでいない』と明言している。JICAとのパートナーシップの終了後もVCTセンターを運営するとの発言を繰り返すなど、少なくとも継続の意思は固い。しかし、前述のとおり財政的な裏付けは未確認である。</li> </ul>	<p>プロジェクト関係文書</p> <p>DAPP・ZAPSO職員との半構造化インタビュー</p>
自立発展性の総合評価	『概ね良好』	

## 第5章 特記事項（提言・教訓等を含む）

### 5 - 1 特記事項

- (1) DAPPのアプローチは対象人口全員に対し、一律に啓発活動を実施する方式であったため、人々の差別偏見を取り除き、行動変容を促すために有効であった。ハイリスクグループ(CSWなど)を対象としたアプローチでは、活動の対象となること自体への心理的抵抗、周辺からの差別偏見を生み出す可能性が高い。
- (2) 多数(9,000人以上)の様々な属性(CSW、男性、若者など)のパッションネイト(ボランティア)を養成したことで、対象グループの特性に合わせた活動が可能となった。
- (3) 宗教指導者がVCTセンターでHIV検査を受けたことにより、宗教指導者間のHIV/AIDSに対する関与が高まった。また、地域の教会でエイズをテーマとした説教が行われ、陽性者が教会からスピリチュアルサポートを受けることが可能となった。さらには差別偏見の低減に寄与する結果となった。
- (4) 男性団体との連携を構築したことで男性の巻き込みが促進された。一方、VCTセンターのカウンセラーが全員女性であったことで、男性のVCTセンターへのアクセスが十分に促進されなかった可能性が残された。
- (5) プロジェクト開始前にExit Plan(出口戦略)を策定することが必要である。プロジェクト開始時から終了後のシナリオをある程度、描いておく必要がある。さらに、中間評価を行い、出口戦略について関係者間で合意形成を図っておく必要がある。
- (6) 保健省等、行政の巻き込みを強化することで更なる自立発展性が見込まれたであろう。VCTセンターについては、保健省との連携を図ることなどで、VCTサービスの質の確保も可能であったと思われる。

## 付 属 資 料

運営指導調査協議議事録（M/M）

ジンバブエ社会情勢の不安定化により、2008年8月に保健児童福祉省の署名が取り付けられた。

MINUTES OF MEETING  
BETWEEN  
THE JAPANESE PROJECT CONSULTATION TEAM  
AND  
MINISTRY OF HEALTH AND CHILD WELFARE OF THE GOVERNMENT OF THE  
REPUBLIC OF ZIMBABWE  
ON  
THE PROJECT FOR PREVENTION OF HIV/AIDS TRANSMISSION IN THE  
MABVUKU/TAFARA AREA IN THE CITY OF HARARE

The Japanese Project Consultation Team (hereinafter referred to as “the Team”), organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”) and headed by Mr. Hideo EGUCHI visited the Republic of Zimbabwe from November 19 to December 2, 2006. The purpose of the Team was to confirm the achievements made during the three years’ cooperation period, and to make the final evaluation for the Project for Prevention of HIV/AIDS Transmission in the Mabvuku/Tafara Area in the City of Harare (hereinafter referred to as “the Project”).

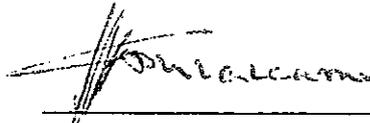
During its stay, the Team had a series of discussions and observations, and exchanged views with the authorities concerned of the Republic of Zimbabwe. As a result of the discussions, both sides agreed upon the matters referred to in the documents attached hereto.

August 2008



---

Mr. Hideo EGUCHI  
Leader  
The Project Consultation Team  
Japan International Cooperation Agency



---

Dr. Davies DHLAKAMA  
Principal Director of Technical Support  
Ministry of Health and Child Welfare  
Government of the Republic of Zimbabwe

## ATTACHED DOCUMENT

### 1. Introduction

The Japan International Cooperation Agency (JICA) entrusted the implementation of the Project for the Prevention of HIV/AIDS Transmission in the Mabvuku/Tafara Area in the City of Harare (the Project) to Zimbabwe AIDS Prevention Support Organisation (ZAPSO) and Development Aid from People to People (DAPP). The Project is aimed at the reduction of HIV transmission through providing community mobilization and voluntary counseling and testing (VCT) services in the Mabvuku/Tafara area. Community mobilization is done mainly by DAPP and VCT services are offered by ZAPSO in the Project.

In order to evaluate the implementation and the achievements of the Project based on the Minutes of Meeting signed on December 5, 2003, the terminal evaluation was conducted. The results of evaluation report prepared by a local consultant were used as a reference. Through careful studies and discussions, The Japanese Project Consultation Team summarized its findings and observations as described in this document.

### 2. Project Overview

#### 2.1 Period of Cooperation

December 5, 2003 - December 4, 2006 (3 years)

#### 2.2 Overall Goal

To improve the health condition of the people in the Mabvuku/Tafara area in the City of Harare.

#### 2.3 Project Purpose

To reduce HIV/AIDS transmission in the Mabvuku/Tafara area.

#### 2.4 Outputs

- 1) The local community acquires an awareness of the HIV/AIDS epidemic. (Output 1)
- 2) Individuals and families make informed decisions in order to know their HIV status through voluntary counseling and testing. (Output 2)
- 3) Promote behavior change in the local community through the practice of safer sexual practices. (Output 3)
- 4) Set up supporting networks for HIV/AIDS to allow easy access to such facilities. (Output 4)
- 5) The field officers avail their knowledge and services in the Project area. (Output 5)

#### 2.5 Inputs

Japanese side: Total project cost is USD769, 135.

The amount was expended on personnel and operational cost (e.g. training, workshops, monitoring, and printing materials), equipment (e.g. HIV test kits), and infrastructure development.

Zimbabwean side: One VCT counselor and one VCT secretary (ZAPSO)

### 3. Summary of Achievement of Outputs and Project Purpose, and Performance of Activities

Achievements of each Output and performance of activities of the Project are highlighted below. Overall, the Project has nearly achieved all the Outputs. Although, the achievement of Project Purpose was not clearly measured, each Output is considered to effectively contribute to the achievement of Project Purpose.

#### 3.1 Output 1: The local community acquires an awareness of the HIV/AIDS epidemic.

Output 1 was achieved with most target values surpassed. 110,352 people were educated through a one on one contact and among them 106,409 people gained correct knowledge on HIV/AIDS.

Activities	Results
1. Inform, counsel and educate 100,000 people about HIV/AIDS through a one on one contact on how to take control of the epidemic. (DAPP)	<ul style="list-style-type: none"> <li>A total of 110,352 people (15,544 house holds) were visited and educated on HIV/AIDS by DAPP Field officers and <i>Passionates</i> (volunteers) within the 3 year period.</li> <li>A questionnaire on HIV/AIDS developed by DAPP was used to measure peoples' knowledge on HIV/AIDS. A total of 106,409 people scored above 80% on the questionnaire, which means that they have correct knowledge on HIV/AIDS.</li> </ul>
2. Hold 6,000 lectures/workshops to 100,000 people. (DAPP)	<ul style="list-style-type: none"> <li>A total of 2,351 lessons/workshops were shared with the community and 52,240 people attended. The lessons and workshops covered issues such as HIV/AIDS, stigma and discrimination, positive living and income generation and good nutrition.</li> </ul>
3. Train for PMTCT and participate in educating and informing the 400 pregnant mothers and their husbands/partners about PMTCT as well as training of health personnel and community volunteers. (DAPP)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Field officers and <i>Passionates</i> (volunteers) were trained to participate in educating and informing the pregnant mothers and their husbands/partners about PMTCT. They had the responsibility of educating pregnant mothers and their husbands every Wednesday and Thursday at the antenatal clinic, Mabvuku Polyclinic.</li> <li>For the 3 years, a total number of PMTCT referrals in the area was 2,891.</li> </ul>

### 3.2 Output 2: Individuals and families make informed decisions in order to know their HIV status through VCT

Output 2 was achieved and the Project surpassed the target value. 10,851 people in the Mabvuku/Tafara area were tested for HIV as a result of community mobilization done by DAPP. Furthermore, the establishment of ZAPSO VCT Center increased the accessibility and availability of VCT services in the community.

Activities	Results
1. VCT Center established and operational. (ZAPSO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>A VCT Centre was established in the Mabvuku/Tafara area in 2003 November. The VCT Center meets the required standards for the physical infrastructure.</li> <li>The Center is operational in a strategic position near the main road where people in the community can access easily.</li> </ul>
2. Marketing strategy established. (ZAPSO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Leaflets, pamphlets, posters and brochures were produced as an effort to market VCT services.</li> <li>Stakeholders in the area, i.e. health institutions, counseling organizations have all marketed VCT services.</li> </ul>
3. Refer 1,000 people for VCT services. (DAPP)	<ul style="list-style-type: none"> <li>A total of 10,851 people (about 18% of the targeted Mabvuku/Tafara population 15 years old and over) were tested for HIV at the ZAPSO VCT Centre, Mabvuku Polyclinic and other places during the three years.</li> </ul>
4. Voluntary counseling and testing services offered. (ZAPSO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>6,097 clients (42% male and 58% female) were tested for HIV at the ZAPSO VCT Center. Of the total people tested for HIV, 40% tested positive.</li> </ul>

### 3.3 Output 3: Promote behavior change in the local community through the practice of safer sexual practices

Output 3 is expected to be achieved. Several indications that were possibly contributing to the achievement of this output were observed. For instance, it was noted during focus group discussions that HIV positive men were highlighting the consistent use of condoms to avoid further transmission of HIV. Furthermore, some sex workers stated that they use condoms consistently.

Activities	Results
1. Distribute approximately 500,000 condoms. (DAPP)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Condom demonstration and distribution was done by field officers and <i>Passionates</i> (volunteers) targeting commuter drivers, sex workers and so on. DAPP managed to distribute 740,024 condoms within the 3 year period. Of these, 12% were female condoms and 88% were male condoms.</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>Condom outlets were established at different places such as beer halls and hair saloons and maintained by <i>Passionates</i>.</li> </ul>
2. Health promotion services are offered. (ZAPSO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Materials for IEC were developed, pre-tested and distributed. IEC materials were translated into the local language, <i>Shona</i>.</li> </ul>

Note: other activities listed above, for example, activities under Output1 were considered to contribute to the achievement of Output 3.

### 3.4 Output 4: Supporting referral system established to allow easy access to such facilities

Output 4 was achieved to an extent. There is need for improvement in terms of referrals for STIs services. As a result of the Project, comprehensive referral system and support network in the area of prevention, care and support was established. This reinforces access to a series of services available within the area and complement weakness of respective organizations.

Activities	Results
1. 50 infected and affected people in the community are encouraged to be actively involved in participating in support groups. (DAPP)	<ul style="list-style-type: none"> <li>184 PLWHAs were trained on the basic facts on HIV/AIDS, health, hygiene, meal planning, nutrition and herbs. Support groups were formed and income generating activities were carried out.</li> </ul>
2. Train 30 Home Based Care (HBC) volunteers in the community (DAPP)	<ul style="list-style-type: none"> <li>A total of 150 HBC givers received refresher training on the use of the standard kit, which was advised by the MoHCW.</li> </ul>
3. Locate and assist 1,000 orphans in need of support (DAPP)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Over 1,000 OVC were identified and referred to different organizations such as Mavambo Trust, DAAC and Better Education Assistance Module (BEAM). Among the services offered to the OVC were food packs, t-shirts, and school fees.</li> </ul>
4. Other health education activities such including nutrition care, support of exclusive breast feeding (DAPP)	<ul style="list-style-type: none"> <li>A total of 643 people benefited from the training on the use of and preparation of soy meals, among them, 12 Mabvuku Polyclinic staff and 66 tuberculosis patients.</li> </ul>
5. Refer approximately 3,000 people for STI treatment (DAPP)	<ul style="list-style-type: none"> <li>A total of 1,012 people with subjective symptoms were referred to different health institutions for STI treatment.</li> </ul>

<p>6. Establish a system for client referral, care and management and other post-test counseling services as needed to health facilities, support groups and organisations. (DAPP and ZAPSO)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• DAPP and ZAPSO identified organizations for referrals for PPTCT, OVC, and treatment of OIs, HBC and spiritual support and so forth.</li> <li>• The Project has managed to develop strong networks within and outside the community that they work in. Of special note is the referral system established among DAPP, ZAPSO VCT center and Mabvuku Polyclinic.</li> </ul>
<p>7. Integrate VCT with services such as STIs, family planning and other reproductive health components. (ZAPSO)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• No clients were screened for RPR testing (Rapid Plasma Reagin, a blood test for syphilis). However, a referral system was established with Mabvuku Polyclinic for those who needed family planning activities and RPR testing.</li> </ul>

### 3.5 Output 5: The field officers avail their knowledge and services

Output 5 was achieved. The capacity of 50 field officers and 9,178 *Passionates* (volunteers) were increased through trainings and activities in the field of HIV/AIDS.

Activities	Results
<p>1. Train 50 field officers (DAPP)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 50 field officers were recruited in the first year of the Project. Field officers were trained and developed necessary skills such as communication and counseling skills to educate and mobilize people about HIV/AIDS.</li> <li>• Field officers submitted report to their supervisor regularly and received feedback on their activities to evaluate and share their experience.</li> </ul>
<p>2. Mobilize and train approximately 2,000 <i>Passionates</i> (volunteers) to be active in the fight to control the AIDS epidemic in their communities. (DAPP)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• In the first year, patrol meetings were held to recruit and train <i>Passionates</i>. <i>Passionates</i> received training on HBC, HIV/AIDS knowledge, communication and counseling skills, and leadership skills to help field officers with their daily activities.</li> <li>• Over the three years, DAPP has mobilized 9,178 <i>Passionates</i>. Of these, 2 500 are active as of November 2006.</li> <li>• <i>Passionates</i> have started incoming generating projects such as nutrition and herbal gardens. They also monitor the 594 community libraries that have been established for the 3 years.</li> </ul>

## 4. Summary of Evaluation

### 4.1 Relevance

The relevance of the Project still remains high at the time of the evaluation. Following are the reasons:

- the Mabvuku/Tafara area is situated in high density suburbs of Harare and the HIV prevalence in the area is relatively higher than the national average.
- the needs for VCT services are high considering the fact that the number of clients has been increasing at the ZAPSO VCT Center. There was no VCT center prior to the Project in the Mabvuku/Tafara area and the Center contributed to the increase of access to VCT services among the residents. With the expansion of HIV-related services such as the Prevention of Mother to Child Transmission of HIV (PMTCT) programme, demand for VCT services has been increasing, and the ZAPSO VCT Center has responded to the residents' demand as an only stand-alone VCT center in the area.
- the Project is in line with the policy of the Government of Zimbabwe such as National policy on HIV/AIDS for the Republic of Zimbabwe (1999). The Project Purpose and Outputs are consistent with the national strategy for HIV/AIDS in Zimbabwe which emphasizes the importance of increasing public awareness and expansion of VCT services as an entry point to care, support and treatment.
- the Project is consistent with the government of Japan's Development Assistance Policy where it expressed its commitment to assist developing countries in the area of controlling infectious diseases by launching the Okinawa Initiative for Infectious Disease Control in 2000 and the Health and Development Initiative in 2005. Moreover, the Project is in line with Millennium Development Goal which aims to halt the spread of HIV.

### 4.2 Effectiveness

Effectiveness of the Project was examined through estimating the extent to which the Project Purpose has been achieved, or is expected to be achieved, in relation to the Outputs produced by the Project.

The Project Purpose is to reduce HIV transmission in the Mabvuku/Tafara area. However, the measurement of HIV incidence is generally difficult and the data is not available. It can be said that reduction of HIV transmission was not appropriate as an indicator of project purpose. Despite a lack of measurable indicator, it is presumed that the effectiveness of the Project is generally good since the comprehensive activities towards the reduction of HIV transmission were performed. Each Output favorably contributes to the reduction of HIV transmission. In particular, as a result of community mobilization by DAPP, accessibility and utilization of VCT services have been promoted.

### 4.3 Efficiency

In general, the Project was implemented efficiently considering that the most Inputs and Activities were converted to produce Outputs and eventually to achieve the Project Purpose.

Due to the sensitive nature of the issue, it was appropriate to ensure the efficiency by composing the Project of Zimbabweans who are aware of the local languages and cultural background. In particular, locally recruited *Passionates* (volunteers) have significantly contributed to increase the efficiency of DAPP's activities by assisting the field officers. Both DAPP and ZAPSO established cooperation with the existing organizations (home based care organizations, OVC support groups etc.) in the area. Involvement of influential stakeholders such as District AIDS Action Committee (DAAC) and churches enhanced efficiency. Moreover, DAPP used the method of Total Community Mobilization (TCE) which had been used in neighboring countries such as Mozambique and activity was smoothly carried out by utilizing the existing materials. Although there is room for improvement in translating some materials into the local languages (e.g. Nyanja language) and updating the contents to the latest information, introduction of the TCE contributed greatly to the efficiency of the Project. On the other hand, in order to improve the efficiency of the activity of both DAPP and ZAPSO further, strengthening coordination among DAPP, ZAPSO, MoHCW and JICA was required. For example, regular meetings should have been held in order to discuss the progress of the Project and to take measures necessary to achieve the Project Outputs and Purpose.

### 4.4 Impact

Improvement of health condition among the residents in the Mabvuku/Tafara area was employed as the Overall Goal. Although it was difficult to measure the achievement of this goal, two factors that will be possibly contributing to its achievement were observed; 1) comprehensive health education, and 2) referral system within the community.

- 1) DAPP includes health education component not only on HIV/AIDS but also on personal hygiene and clean water, food and nutrition, tuberculosis, malaria and so forth. The comprehensive health education package is expected to lead the health status in the area to improve.
- 2) Referral system has been established among DAPP, ZAPSO VCT Center, Mabvuku Polyclinic and other health care facilities in the community. In particular, referral to the Prevention of Parent to Child Transmission of HIV Programme will subsequently contribute to the reduction of infant and maternal mortality rate.

Positive impacts include: 1) disclosure and openness on the issue of HIV/AIDS in the community (disclosure of HIV status), and 2) improvement in the self-confidence of vulnerable populations (sex workers etc.) and income generating activities. Moreover, People Living with HIV formed support groups. Stigma and discrimination is still prevalent but reduced to a reasonable extent. DAPP assisted some sex workers to leave sex business and to start income generating activities such as cloth vending and sewing.

On the other hand, no clear negative impact was observed. However, since all the counselors of the ZAPSO VCT Center are female, it is not possible to conduct same-sex-counseling sessions, i.e. male-to-male counseling. This might have caused fewer numbers of male clients at VCT Center.

#### 4.5 Sustainability

Sustainability of the Project was examined through estimating the prospect and possibility of continuation and further development and extension of the Project. The certain degree of sustainability has been secured.

A total of 9,178 DAPP *Passionates* (volunteers) were made available in the area as of November 2006. They are expected to and, in practice, continue DAPP's activities on voluntary basis. There is a substantial sense of ownership of the Project by the communities. For example, *Passionates* maintain 594 small libraries established by the Project and also continue income generating activities by themselves. Moreover, by having carried out community mobilization to more than 110,000 people which is equivalent to one third of the area's population, awareness and commitment of people have increased at community level. Consequently, community capacity was built to respond effectively and continuously to HIV/AIDS. Furthermore, "Hope" which is another HIV/AIDS related project of DAPP is planning to start its activity in the Mabvuku/Tafara area and support *Passionates* with their activities.

On the other hand, although ZAPSO expressed its intention to continue the VCT Center operation, ZAPSO needs further efforts to secure financial resources. Sustainability of ZAPSO VCT Center can be expected by strengthening cooperation with MoHCW and other related organizations.

#### 5. Conclusion

- Overall, the Project has achieved all the Outputs and each Output is considered to effectively contribute to the achievement of Project Purpose. The Project contributed to fill a gap since it has been serving the needs and interests of the Mabvuku/Tafara community and extensively supporting people living with HIV. The Project has shown high level of support from the community. The functional integration of HIV-related services enables people to access those services that best respond to their particular needs.
- Activity of DAPP was carried out through various channels such as churches, health care facilities, schools, OVC support groups and so forth. As a result, the awareness of HIV/AIDS improved, the self-help groups for PLWHA were formed, and income generating activities have been carried out.
- Both DAPP and ZAPSO established cooperation with the existing organizations (e.g. home based care organizations, OVC support groups) in the area, and as a result Outputs were attained.

## 6. Lessons Learned and Recommendations

- The approach of DAPP, total community involvement, was effective in order to reduce stigma and discrimination and to promote behavior change since HIV education activities were uniformly carried out to all the members of the area.
- By having trained more than 9,000 *Passionates* (volunteers) of various attributes (e.g. sex worker, male, youth), the activity geared to the characteristics of target groups was achieved.
- Religious leaders can improve community participation in all HIV/AIDS initiatives and increase the awareness at the community level. In the Project, religious leaders underwent HIV test at the ZAPSO VCT Center. As a result, people living with and affected by HIV are able to receive spiritual support from religious leaders. Furthermore, this contributed to the reduction of stigma and discrimination in the community.
- Gender mainstreaming is important in every aspect of the Project. Male involvement was promoted by having built partnership with a male organization. On the other hand, however, access to the ZAPSO VCT Center might not have been promoted fully because all the counselors were woman.
- Well-defined indicator for project purpose is needed to monitor and evaluate its achievement. Reduction of HIV transmission is not appropriate to be set as an indicator since its measurement is complex and difficult. In addition, achievement of reduction of HIV transmission requires long period of time.
- In addition to well-defined indicators, regular monitoring is needed to implement the Project effectively and efficiently and to achieve the Project Outputs and Purpose.
- In order to improve the efficiency of the activity of both DAPP and ZAPSO further, strengthening coordination among DAPP, ZAPSO, MoHCW and JICA was required. For example, regular meetings should have been held in order to discuss the progress of the Project and to take measures necessary to achieve the Project Outputs and Purpose.
- Exit plans (strategy) of any project should be formulated already in the project design stage. Furthermore, it is necessary to perform mid-term evaluation or workshop and to have an agreement among the persons concerned about an exit strategy.
- The further sustainability would have been expected by strengthening involvement of stakeholders such as MoHCW. As for the ZAPSO VCT Center, strong involvement of MoHCW and NAC would have contributed to monitor and ensure the quality of services at the VCT Center.

